

ScreenBeam® | wireless display

# ScreenBeam 960

## ワイヤレスディスプレイ 受信機

ユーザマニュアル  
(上級編)

V1.0

対象カタログ番号: SBWD960

# 目次

パートV	IT管理者向けのデバイス管理 .....	4
5.1	ScreenBeam CMSソフトウェアを使用する .....	4
5.2	ScreenBeamのローカル管理機能を使用する .....	4
5.2.1	方法1: DHCP経由のネットワーク接続.....	6
5.3	ScreenBeamを設定する.....	6
5.3.1	一般設定 .....	7
5.3.1.1	受信機の名前を変更する .....	7
5.3.1.2	ログイン時のユーザー名とパスワードを設定する.....	8
5.3.1.3	受信機の表示言語を設定する .....	8
5.3.1.4	受信機のホスト名を変更する .....	9
5.3.1.5	タイムゾーンを設定する .....	10
5.3.2	LAN経由のワイヤレスディスプレイ接続.....	11
5.3.2.1	Windows 10デバイス用にLAN経由のワイヤレスディスプレイ接続 を設定する .....	11
5.3.2.2	macOS/iOSデバイスのネイティブな画面ミラーリング機能を設定す る.....	12
5.3.3	P2Pの無線設定.....	14
5.3.3.1	P2Pの動作チャンネルを設定する .....	14
5.3.3.2	送信電力を設定する.....	15
5.3.4	セキュリティの設定.....	16
5.3.4.1	PINのペアリング方法を設定する .....	16
5.3.5	ディスプレイの設定.....	19
5.3.5.1	ディスプレイ共有モードを設定する .....	19
5.3.5.2	テレビ画面にネットワーク情報を表示するよう設定する.....	20
5.3.5.3	接続に関する指示を隠す .....	20
5.3.5.4	HDMI/VGAポート出力を管理する .....	22
5.3.5.5	受信機のウェイクアップ機能を設定する .....	23
5.3.5.6	テレビ画面のサイズを調節する.....	24
5.3.5.7	受信機の背景画像を更新する .....	24
5.3.5.8	受信機のスクリーンセーバー画像を更新する .....	26
5.3.6	ネットワークの設定.....	27
5.3.6.1.	受信機のIPアドレスを設定する .....	27
5.3.6.2.	受信機のDNSサーバーを指定する .....	28
5.3.8	受信機の管理用アクセスの設定.....	30
5.3.8.1	受信機のScreenBeam CMSを指定する .....	30
5.3.8.2	受信機のLMIのポートを指定する .....	31
5.3.8.3	ローカル管理インターフェイスへのアクセスを設定する.....	31

パートVI	受信機のファームウェアの更新 .....	33
6.1	LMIからファームウェアを更新する .....	33
6.1.1	ローカルPCからファームウェアを更新する .....	33
6.2	USBドライブを使用してファームウェアを更新する .....	35
Part VII	受信機のメンテナンス .....	37
7.1	受信機のログ動作を設定する .....	37
7.2	受信機のログをLMIにエクスポートする .....	38
7.3	システムの稼働時間を確認する .....	39
7.4	受信機を再起動する .....	39
7.5	受信機をデフォルトの設定にリセットする .....	40
7.6	最高のパフォーマンスを得るためのヒント .....	41
付録I	トラブルシューティングとFAQ .....	42
	トラブルシューティング .....	42
	よくある質問 (FAQ) .....	44
付録II	お知らせ .....	48
	保障について .....	48
	GPLに関する情報 .....	48
	テクニカルサポート .....	48

# パートV IT管理者向けのデバイス管理

ScreenBeam 960を管理するには、ScreenBeam CMSソフトウェアを使用するか、ScreenBeamのローカル管理インターフェイス（LMI）を利用します。

## 5.1 ScreenBeam CMSソフトウェアを使用する

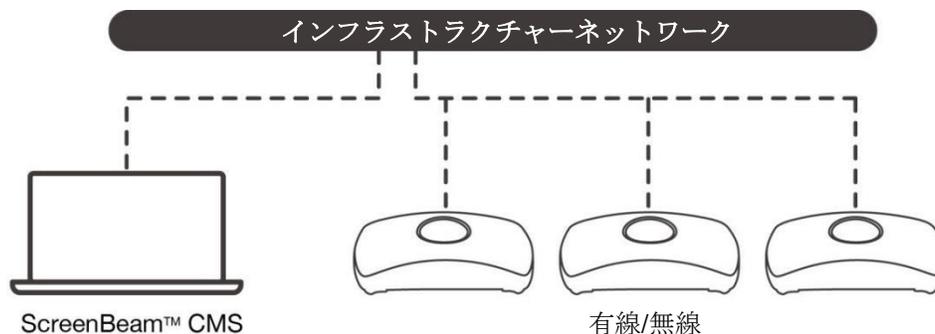
ScreenBeam集中管理システム（CMS）は、複数のユニットをデプロイ、設定、管理するための一押しの無償ツールです。

1. CMSのソフトウェアとユーザーガイドは、次の場所から入手できます：

<https://customersupport.screenbeam.com/hc/en-us/>

2. セットアップ方法については、CMSのユーザーガイドを参照してください。

注: ScreenBeam 960をScreenBeam CMSに接続して管理を行っている間、デフォルトではLMIにアクセスできません。このオプションは、受信機の設定で変更できます。



## 5.2 ScreenBeamのローカル管理機能を使用する

ローカル管理インターフェイス(LMI)では、ScreenBeamを1度に1台だけ設定/更新することができます。LMIには2つの方法でアクセスできます。

- 方法1: DHCP経由のネットワーク接続
- 方法2: ワイヤレスP2Pダイレクト接続

注:

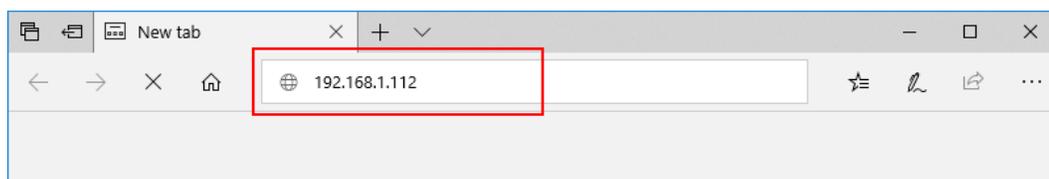
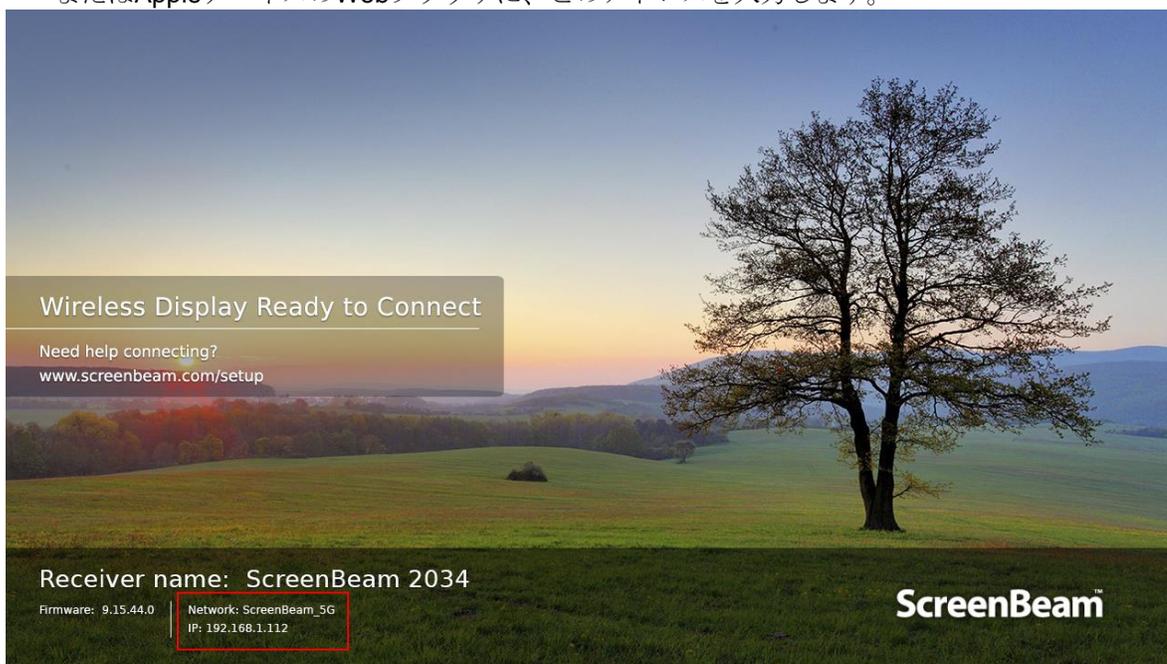
ローカル管理インターフェイスは、以下のいずれかの場合にアクセスできます。

- 受信機の**Local Management Interface Access**（ローカル管理インターフェイスへのアクセス）機能が**Auto**（自動）に設定されており、受信機が**CMS**に接続されていない。
- 受信機の**Local Management Interface Access**（ローカル管理インターフェイスへのアクセス）機能が**Enable**（有効）に設定されている。

ローカル管理インターフェイスの詳細については、セクション5.3.8.3「ローカル管理インターフェイスへのアクセスを設定する」を参照してください。

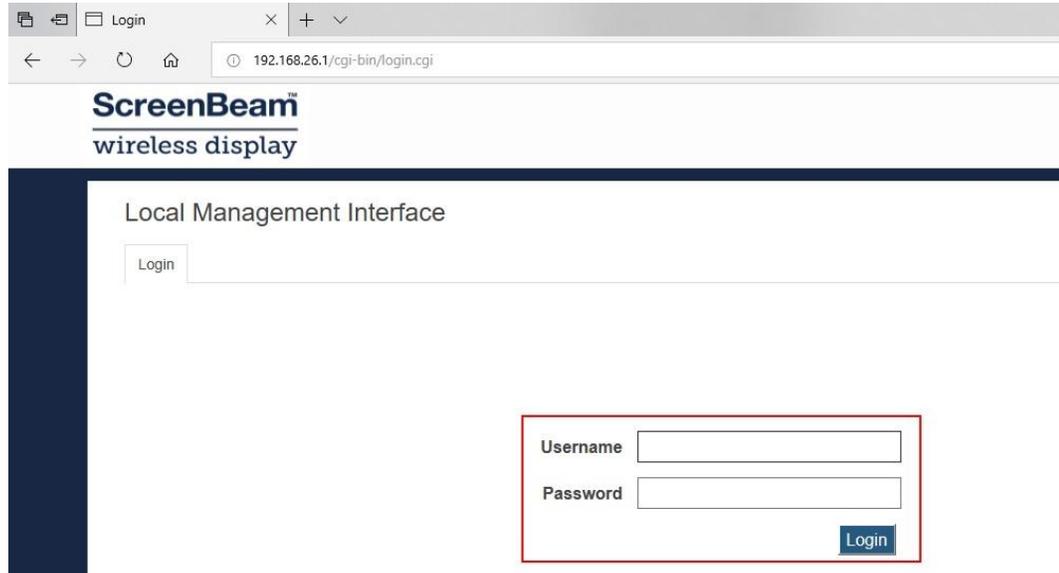
## 5.2.1 方法1: DHCP経由のネットワーク接続

1. シールド処理されて両端にRJ-45コネクタがついているCat 5e以上のイーサネットケーブルを使用して、ScreenBeamのイーサネットポートをDHCP対応のネットワークに接続します。
2. ディスプレイの**Ready to Connect**（接続準備完了）画面に、ScreenBeamに割り当てられたIPアドレスが表示されます。ScreenBeamと同じネットワーク上にあるPCまたはAppleデバイスのWebブラウザに、このアドレスを入力します。



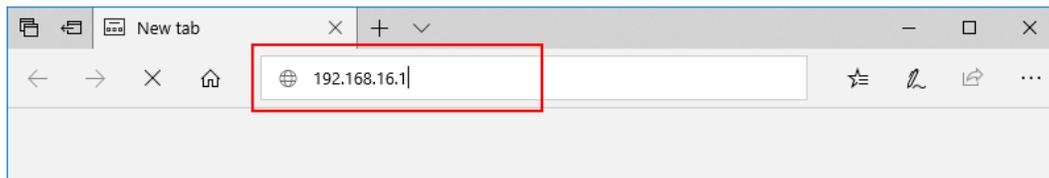
3. 「この接続またはサイトは安全ではないか、プライベートではありません」というエラーメッセージがブラウザに表示される場合があります。その場合は、以下のように手動で接続を許可してください。
  - **Chrome** ブラウザ: [詳細設定]をクリックし、[このまま続行]をクリックします。
  - **Edge/IE**ブラウザ: [詳細情報]をクリックし、（[このサイトの閲覧を続行する（推奨されません）]）をクリックします。
  - **Firefox**ブラウザ: [例外として扱うこともできます]をクリックし、[例外を追加]をクリックし、[セキュリティ例外を承認]をクリックします。

4. ScreenBeamの管理ページが表示されたら、**Username**（ユーザー名）に Administratorと入力し、**Password**（パスワード）にscreenbeamと入力します（どちらも大文字と小文字が区別されます）。  
デフォルトでは、ユーザー名は**Administrator**、パスワードは**screenbeam**となっています。



## 5.2.2 方法2: ワイヤレスP2Pダイレクト接続

1. 前述したセクション3.3「**Wi-Fi Miracast**を使用して接続する」の説明に従って、Windows 10/8.1デバイスをScreenBeamに接続します。
2. 接続したら、Webブラウザで**http://192.168.16.1**と入力し、LMIにアクセスします。



3. 方法1の手順3以降を実行します。

## 5.3 ScreenBeamを設定する

ローカル管理インターフェイスにログインすると、ローカル管理インターフェイスでScreenBeam 960を設定できます。

## 5.3.1 一般設定

このセクションでは、受信機の一般設定について説明します。

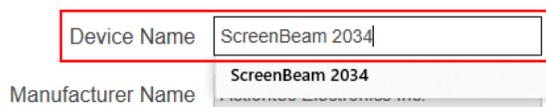
### 5.3.1.1 受信機の名前を変更する

受信機の名前を変更するには、以下の手順を実行します。

1. **Device Configuration** (デバイスの設定) タブをクリックして**Device Configuration** (デバイスの設定) タブのページを開きます。



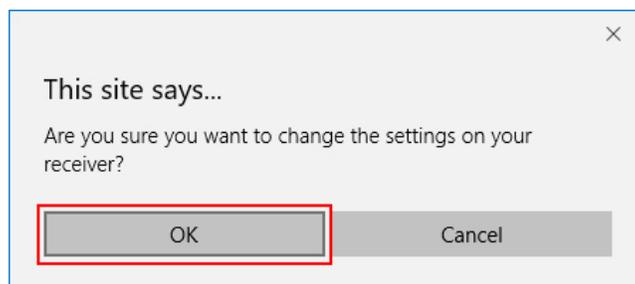
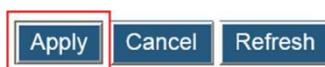
2. **Device Name** (デバイス名) ボックスに新しい名前を入力します。



受信機の**Device Name** (デバイス名) には、以下の文字を使用できます。

- A-Z
- a-z
- 0-9
- ~!@#%&^\*()\_+{}|:?\-=[];',./
- Unicodeが次の範囲である日本語の文字: **\u3040-\u30FF**、**\u31F0~\u31FF**、**\u4E00~\u9FBF**。
- 簡体中国語および繁体中国語

3. **Apply** (適用) ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスで**OK**をクリックして設定を確定します。

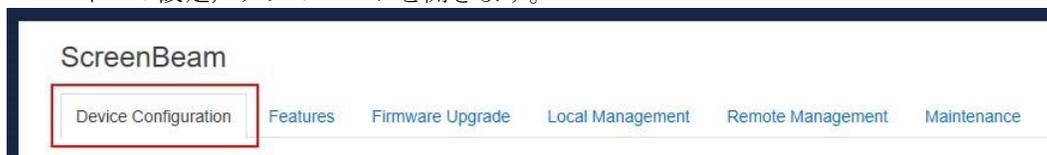


注: 新しい設定は直ちに反映されます。

### 5.3.1.2 ログイン時のユーザー名とパスワードを設定する

ログイン時のユーザー名とパスワードを変更するには、以下の手順を実行します。

1. **Device Configuration**（デバイスの設定）タブをクリックして**Device Configuration**（デバイスの設定）タブのページを開きます。



2. **Administrator Username**（管理者のユーザー名）と**Administrator Password**（管理者のパスワード）の行に移動し、**Administrator Username**（管理者のユーザー名）ボックスと**Administrator Password**（管理者のパスワード）ボックスに新しいユーザー名とパスワードを入力します。

Administrator Username

Administrator Password   Show Password

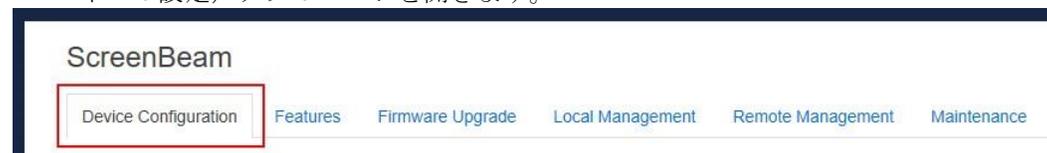
3. **Apply**（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスで**OK**をクリックして設定を確定します。



### 5.3.1.3 受信機の表示言語を設定する

受信機の表示言語を設定するには、以下の手順を実行します。

1. **Device Configuration**（デバイスの設定）タブをクリックして**Device Configuration**（デバイスの設定）タブのページを開きます。



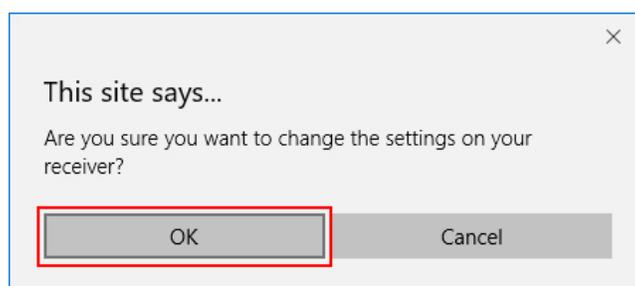
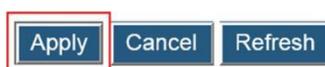
2. **Display Language**（表示言語）の行に移動し、**Display Language**（表示言語）ドロップダウンボックスから目的の言語を選択します。

現在、簡体中国語、繁体中国語、オランダ語、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、ロシア語、スペイン語を利用できます。

注: この設定を変更すると、テレビ画面に表示される言語が変更されます（設定用Webページの言語は変更されません）。



3. **Apply**（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスで**OK**をクリックして設定を確定します。



#### 5.3.1.4 受信機のホスト名を変更する

ホスト名は、ネットワーク上で受信機を識別するのに使用されます。受信機のホスト名を変更するには、以下の手順を実行します。

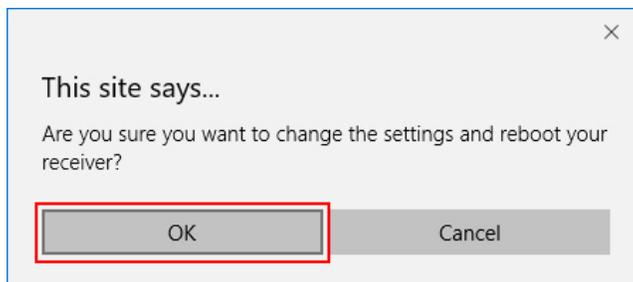
1. **Device Configuration**（デバイスの設定）タブをクリックして**Device Configuration**（デバイスの設定）タブのページを開きます。



2. **Host name**（ホスト名）の行に移動し、**Host name**（ホスト名）ボックスに新しいホスト名を入力します。

\* Host Name

3. **Apply** (適用) ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスで**OK**をクリックして設定を確定します。

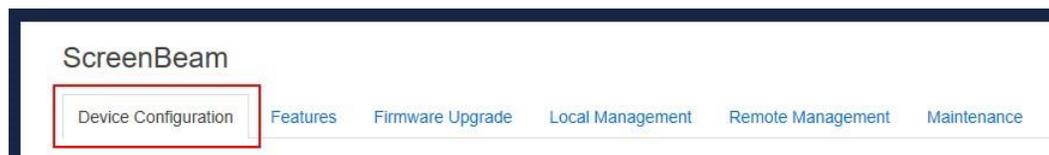


注: 受信機の新しいホスト名は、再起動後に反映されます。

### 5.3.1.5 タイムゾーンを設定する

タイムゾーンを変更するには、以下の手順を実行します。

1. **Device Configuration** (デバイスの設定) タブをクリックして**Device Configuration** (デバイスの設定) タブのページを開きます。

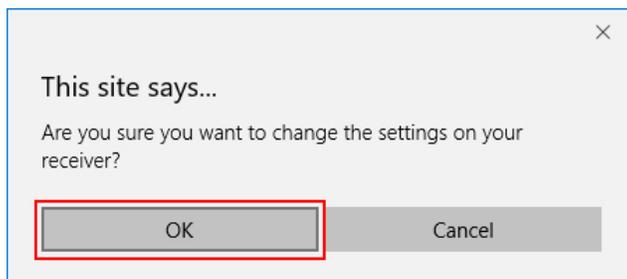


2. **Time zone** (タイムゾーン) の行に移動し、ドロップダウンボックスでタイムゾーンを選択します。



注: 受信機は、接続されているCMSサーバーまたはNTPサーバーと時刻を同期します。

3. **Apply** (適用) ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスで**OK**をクリックして設定を確定します。



## 5.3.2 LAN経由のワイヤレスディスプレイ接続

LAN経由のワイヤレスディスプレイ接続を使用すると、Miracast非対応のデバイスからローカルネットワーク接続経由でコンテンツを画面に映し出すことができます。このモードを使用するには、イーサネット（推奨）または無線で入力元デバイスと同じネットワークにScreenBeam受信機を接続する必要があります。

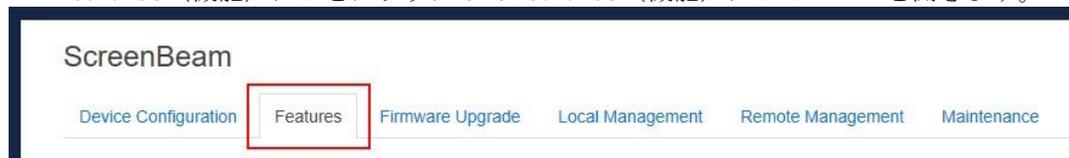
### 5.3.2.1 Windows 10デバイス用にLAN経由のワイヤレスディスプレイ接続を設定する

Windows 10デバイスがMiracastに対応していない場合でも、以下の要件を満たしていれば、デバイスの画面をLAN経由で表示することができます。

- オペレーティングシステム: Windows 10ビルド1703（またはそれ以降）
- 100M/1000Mイーサネットアダプター（必須ではありませんが、使用を推奨します）およびWi-Fiアダプターを使用できる
- 安定なローカルエリアネットワーク
- Windows 10デバイスとScreenBeam 960受信機が同じLANに接続されている
- 必要なポート: TCP 7250、TCP 7236

LAN経由のワイヤレスディスプレイ接続を設定するには、以下の手順を実行します。

1. **Features**（機能）タブをクリックして**Features**（機能）タブのページを開きます。



2. **Wireless display over LAN**（LAN経由のワイヤレスディスプレイ接続）のセクションに移動し、**Windows 10**を**Enable**（有効）または**Disable**（無効）に設定します。

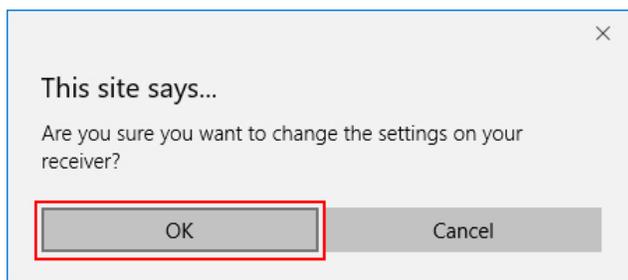
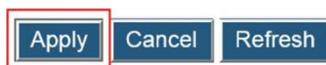
#### Wireless display over LAN

Wireless display over LAN allows client devices to project over the local network connection. ScreenBeam receiver must be (recommended) or via Wireless.

Windows 10	<input checked="" type="radio"/> Enable	<input type="radio"/> Disable	Requires Windows 10
macOS or Windows 7	<input type="radio"/> Enable	<input checked="" type="radio"/> Disable	Requires ScreenBeam
macOS/iOS native screen mirroring	<input checked="" type="radio"/> Enable	<input type="radio"/> Disable	

- **Enable**（有効）：Windows 10デバイスのコンテンツをローカルネットワーク経由で画面に映し出すことができます。この機能はデフォルトで有効になっています。
- **Disable**（無効）：Windows 10デバイスのコンテンツをローカルネットワーク経由で画面に映し出すことができません。

3. **Apply**（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスで**OK**をクリックして設定を確定します。



### 5.3.2.2 macOS/iOSデバイスのネイティブな画面ミラーリング機能を設定する

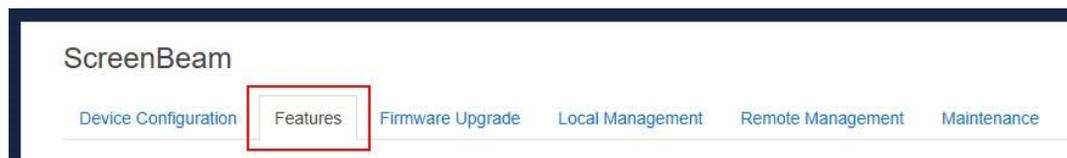
LAN経由のワイヤレスディスプレイ接続を使用すると、ネイティブな画面ミラーリング機能を使用して、macOS/iOSデバイスのコンテンツをローカルネットワーク経由で画面に映し出すことができます。

以下の要件が満たされていることを確認してください。

- オペレーティングシステム: macOSまたはiOS
- 100M/1000Mイーサネットアダプター（必須ではありませんが、使用することを推奨します）およびWi-Fiアダプターを使用できる
- 安定なローカルエリアネットワーク
- MacOS/iOSデバイスとScreenBeam 960受信機が同じLANに接続されている
- 必要なポート: UDP 5353、TCP 47000、TCP 7000、TCP 7100、TCP 18000～18009

macOS/iOSデバイスのネイティブな画面ミラーリング機能を設定するには、以下の手順を実行します。

1. **Features**（機能）タブをクリックして**Features**（機能）タブのページを開きます。



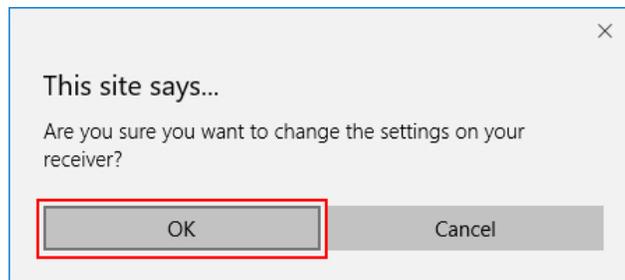
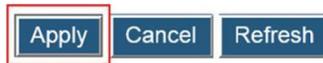
2. **Wireless display over LAN** (LAN経由のワイヤレスディスプレイ接続) のセクションに移動し、**macOS/iOS native screen mirroring** (macOS/iOSのネイティブな画面ミラーリング機能) を**Enable** (有効) または**Disable** (無効) に設定します。

**Wireless display over LAN**

Wireless display over LAN allows client devices to project over the local network connection. ScreenBeam receiver must be (recommended) or via Wireless.

Windows 10	<input checked="" type="radio"/> Enable	<input type="radio"/> Disable	Requires Windows 10
macOS or Windows 7	<input type="radio"/> Enable	<input checked="" type="radio"/> Disable	Requires ScreenBeam
macOS/iOS native screen mirroring	<input checked="" type="radio"/> Enable	<input type="radio"/> Disable	

- **Enable** (有効) : ネイティブな画面ミラーリング機能を使用してmacOS/iOSデバイスのコンテンツをローカルネットワーク経由で画面に映し出すことができます。この機能はデフォルトで有効になっています。
  - **Disable** (無効) : ネイティブな画面ミラーリング機能を使用してmacOS/iOSデバイスのコンテンツをローカルネットワーク経由で画面に映し出すことができません。
3. **Apply** (適用) ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスで**OK**をクリックして設定を確定します。



### 5.3.3 P2Pの無線設定

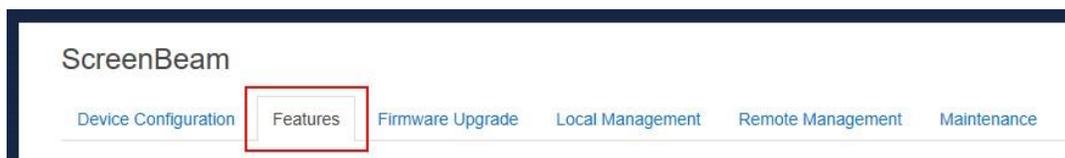
このセクションでは、P2Pの動作チャンネルと送信電力について説明します。

#### 5.3.3.1 P2Pの動作チャンネルを設定する

ScreenBeam 960では、ワイヤレスディスプレイ受信機と入力元デバイスとの間で行われる通信の動作チャンネルを設定できます。

受信機の動作チャンネルを設定するには、以下の手順を実行します。

1. **Features**（機能）タブをクリックして**Features**（機能）タブのページを開きます。



2. **P2P Wireless Setting**（P2Pの無線設定）のセクションに移動し、**P2P Operating Channel**（P2Pの動作チャンネル）ドロップダウンボックスから目的のチャンネルを選択します。

#### P2P Wireless Setting

The image shows a screenshot of the 'P2P Wireless Setting' form. There are two dropdown menus. The first dropdown menu is labeled '\*# P2P Operating Channel' and has the value '165' selected. To the right of this dropdown, there is a note: 'Associated with 'Acc Channel Number''. The second dropdown menu is labeled '\* Transmit Power' and has the value 'Medium' selected.

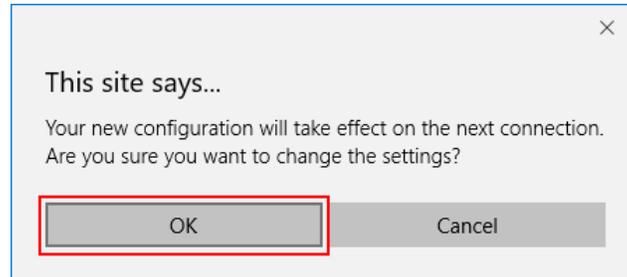
チャンネル1～13は2.4GHz帯のチャンネルとなっており、チャンネル36～165は5GHz帯のチャンネルとなっています。デフォルトではチャンネル36が使用されます。

利用可能なチャンネルは、販売地域（国コード）により異なります。

お使いのネットワーク環境に応じてチャンネルを選択してください。一般に、よりクリーンなチャンネル（そのチャンネルを使用しているデバイスの数が少ないチャンネル）の方が、より高いパフォーマンスを得ることができます。Wi-Fiアナライザーを使用すると、クリーンなチャンネルを特定しやすくなります。

**注:** 動的周波数選択（DFS）チャンネル（50～144）は、Wi-Fiで直接通信するモデルで使用することが禁じられているため、ScreenBeam受信機ではDFSはサポートされていません。入力元デバイスのWi-Fiアダプターがデュアルバンドに対応していない場合は、DFS対応ルーター（AP）から入力元デバイスを切断するか、DFS非対応のAPに接続する必要があります。

3. **Apply** (適用) ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスで**OK**をクリックして設定を確定します。

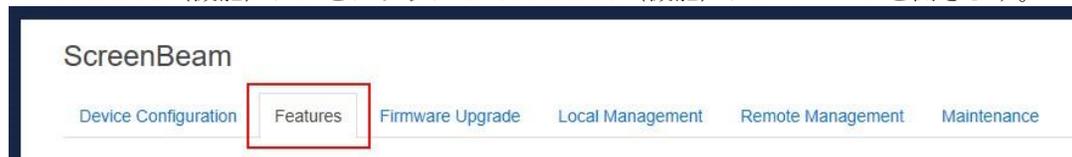


注: 新しい設定は次に接続したときに反映されます。

### 5.3.3.2 送信電力を設定する

受信機の送信電力を設定するには、以下の手順を実行します。

1. **Features** (機能) タブをクリックして**Features** (機能) タブのページを開きます。



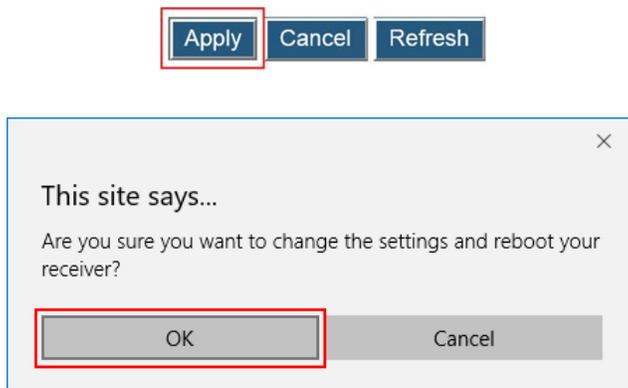
2. **P2P Wireless Setting** (P2Pの無線設定) のセクションに移動し、**Transmit Power** (送信電力) ドロップダウンボックスから目的のオプションを選択します。

送信電力を低くすると、近くにあるデバイスに干渉しにくくなります。送信電力を高くすると、通信距離が長くなります。

#### P2P Wireless Setting



3. **Apply** (適用) ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスで**OK**をクリックして設定を確定します。



4. 受信機が再起動し、再起動後に新しい設定が反映されます。

### 5.3.4 セキュリティの設定

このセクションでは、PINのペアリング方法について説明します。

#### 5.3.4.1 PINのペアリング方法を設定する

PINのペアリング方法を設定するには、以下の手順を実行します。

1. **Features** (機能) タブをクリックして**Features** (機能) タブのページを開きます。



2. **Security Setting** (セキュリティの設定) のセクションに移動し、**Force PIN Pairing on First Connection** (最初の接続時にPINのペアリングを強制する) 機能を**On** (オン) または**Off** (オフ) に設定します。

- PIN強制機能を無効にするには、**Off** (オフ) を選択します。PINまたはPBCのペアリングは、お使いのデバイスと受信機を最初に接続するときに行います。
- PIN強制機能を有効にするには、**On** (オン) を選択します。この場合、デバイスを受信機に接続するたびに (または最初に接続するとき) PINコードを入力する必要があります。**注:** ワイヤレスディスプレイの入力元デバイスによっては、PINの入力がサポートされていない場合があります。このモードが有効になっていると、そのようなデバイスをScreenBeam受信機に接続することはできません。PIN接続を有効にする方法については、デバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

## Security Setting

\* Force PIN Pairing  On  Off Slower connection ti

\* Require PIN on  Each connection  First connection "First connection" on  
PIN on each connect  
ScreenBeam USBTx

PIN length 4-digit Default is 4-digit PIN

\* PIN Generation Method  Static  Random PIN will be visible on

PIN Display Period 60 Seconds(range: 30 -

### 3. PINの入力要求方法の選択

- **Each connection** (毎回) : デイバスから毎回の接続でPIN入力を要求されます。
- **First connection** (初回) : デイバスから初回だけの接続でPIN入力を要求され、次回以降の接続はPIN入力を要求しません。デフォルトでは「初回」です。

## Security Setting

\* Force PIN Pairing  On  Off Slower connection ti

\* Require PIN on  Each connection  First connection "First connection" on  
PIN on each connect  
ScreenBeam USBTx

PIN length 4-digit Default is 4-digit PIN

\* PIN Generation Method  Static  Random PIN will be visible on

PIN Display Period 60 Seconds(range: 30 -

### 4. PINの長さを選択します: 4桁または8桁

- **4-digit** (4桁) : 受信機によって4桁のPINが生成されます。デフォルトでは4桁のPINが使用されます。
- **8-digit** (8桁) : 受信機によって8桁のPINが生成されます。

## Security Setting

\*\* Force PIN Pairing on First Connection  On  Off Slower connection ti

PIN length 8-digit  
4-digit Default is 4-digit PIN

\*\* PIN Generation Method  Static  Random PIN will be visible on

PIN Display Period 60 Seconds(range: 30 -

### 5. PINの生成方法を選択します。

**Force PIN Pairing** (PINのペアリングを強制する) 機能が有効なとき、2つのPIN生成方法 (**Static** (静的) と **Random** (ランダム) ) のいずれかを選択できます

- **Static** (静的) : **Static** (静的) を選択すると、ユーザーがPINを自由に設定できます。PINの長さに**8-digit** (8桁) を選択した場合、ユーザーは最初の7桁を設定できます。そして、その7桁を含む8桁のPINがシステムによって生成されます。 **Static**

**PIN**（静的PIN）ボックスに7桁の値を入力すると、システムによって8桁目の値が生成されます。このPINは、接続されているディスプレイには表示されません。

#### Security Setting

**\*\* Force PIN Pairing on First Connection**  On  Off Slower connection ti

PIN length  Default is 4-digit PIN

**\*\* PIN Generation Method**  Static  Random PIN will not be visibl

**\*\* Static PIN**   Enter 7 digits to crea  
generated for you. S  
able protected mo

PIN Display Period  Seconds(range: 30 -

- **Random**（ランダム）：PINコードはシステムによってランダムに生成され、接続されているHDTV/プロジェクターに表示されます。

6. ディスプレイにPINが表示される期間を設定します。**PIN Display Period**（PIN表示期間）は、30～120秒の範囲で設定できます。

#### Security Setting

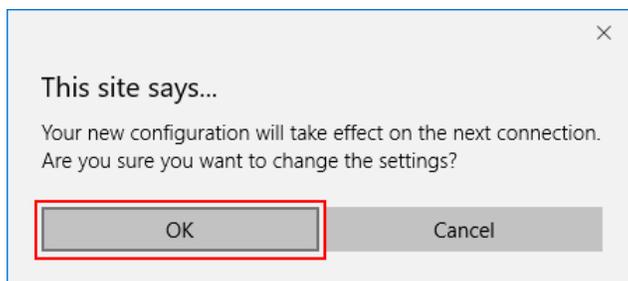
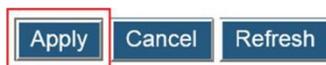
**\*\* Force PIN Pairing on First Connection**  On  Off Slower connection ti

PIN length  Default is 4-digit PIN

**\*\* PIN Generation Method**  Static  Random PIN will be visible on

**PIN Display Period**  Seconds(range: 30 -

7. **Apply**（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスで**OK**をクリックして設定を確定します。



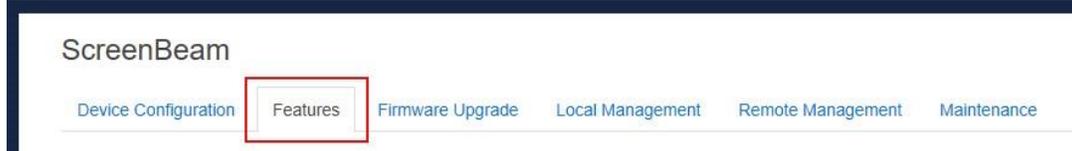
## 5.3.5 ディスプレイの設定

このセクションでは、ディスプレイ関連の機能について説明します。

### 5.3.5.1 ディスプレイ共有モードを設定する

受信機のディスプレイ共有モードを設定するには、以下の手順を実行します。

1. **Features** (機能) タブをクリックして**Features** (機能) タブのページを開きます。



2. **Display Setting** (ディスプレイの設定) のセクションに移動し、**Display Sharing Mode** (ディスプレイ共有モード) メニューから目的のオプションを選択します。選択可能なオプションは、**Single** (シングル)、**Quick Switch** (クイックスイッチ)、**Multi-View** (マルチビュー) です。

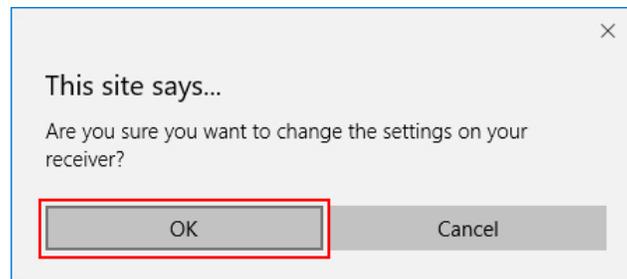
- **Single** (シングルモード) : ディスプレイは現在の接続で独占され、切断しない限り、次の接続はできません。これは工場出荷値です。
- **Quick Switch** (クイックスイッチモード) : 現在の接続を次の接続は切断し、自身を接続し表示できるモードです。MiracastとInfracast接続のみのサポートです。

#### Display Setting

\* Display Sharing Mode



3. **Apply** (適用) ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスで**OK**をクリックして設定を確定します。

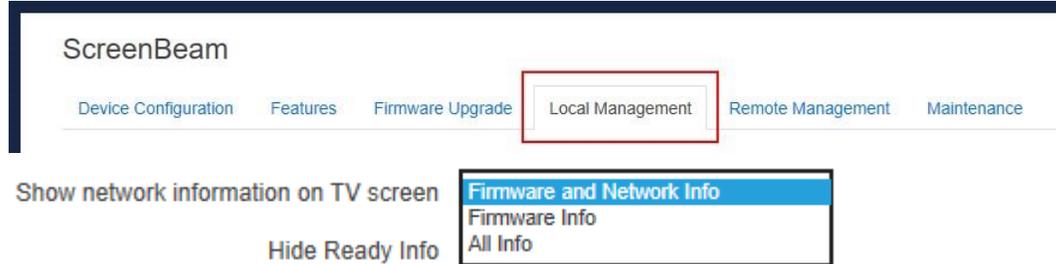


4. 受信機が再起動し、再起動後に新しい設定が反映されます。

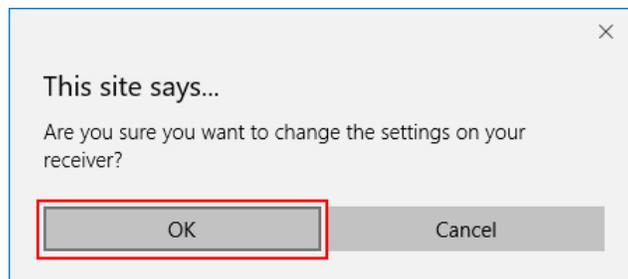
### 5.3.5.2 テレビ画面にネットワーク情報を表示するよう設定する

受信機のネットワーク情報を表示するよう設定するには、以下の手順を実行します。

1. **Local Management**（ローカル管理機能）タブをクリックして**Local Management**（ローカル管理機能）タブのページを開きます。



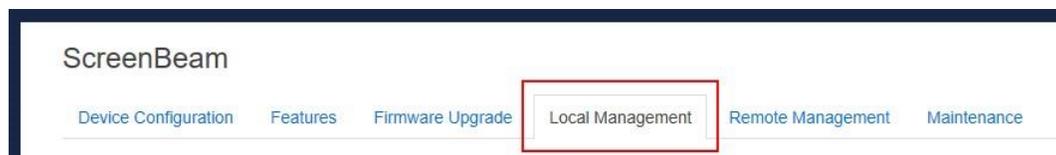
- **All Info**（すべての情報を表示する）：接続されているディスプレイに、受信機のFW、ネットワークとステータスの情報をすべて表示します。
  - **Firmware and Network Info**（FW情報とネットワーク情報を表示する）：接続されているディスプレイに、受信機のFW情報とネットワーク情報を表示します。
  - **Firmware Info**（FW情報）：接続されているディスプレイに、受信機のFW情報のみを表示します。
2. **Apply**（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスで**OK**をクリックして設定を確定します。



### 5.3.5.3 接続に関する指示を隠す

受信機の接続に関する指示を表示または非表示にするには、以下の手順を実行します。

1. **Local Management**（ローカル管理機能）タブをクリックして**Local Management**（ローカル管理機能）タブのページを開きます。

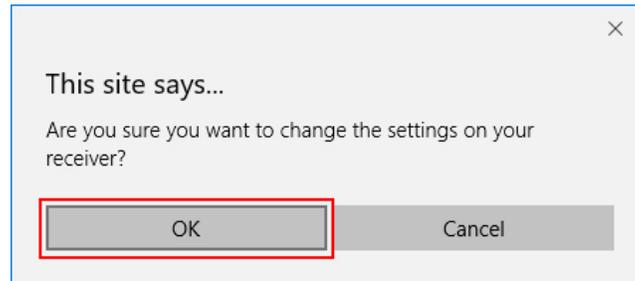


Show network information on TV screen Firmware and Network Info ▼

Hide Ready Info  Enable  Disable

2. **Hide Ready Info**（接続指示を非表示）の機能を**Disable**（表示）または**Enable**（非表示）に設定します。
  - **Disable**（表示）：接続されているディスプレイの左側に、接続に関する指示が表示されます。
  - **Enable**（非表示）：接続に関する指示は表示されません。
3. **Apply**（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスで**OK**をクリックして設定を確定します。

Apply Cancel Refresh



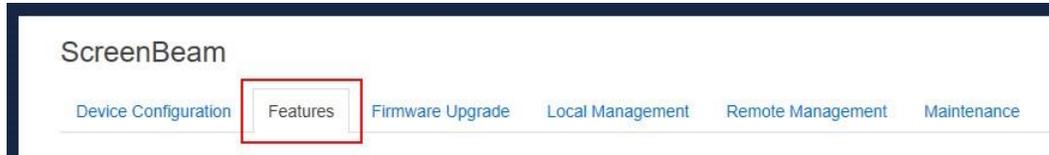
4. この機能を**Enable**（非表示）に設定すると、接続に関する指示が表示されなくなります。



### 5.3.5.4 HDMI/VGAポート出力を管理する

HDMI/VGAポート出力を設定するには、以下の手順を実行します。

1. **Features**（機能）タブをクリックして**Features**（機能）タブのページを開きます。



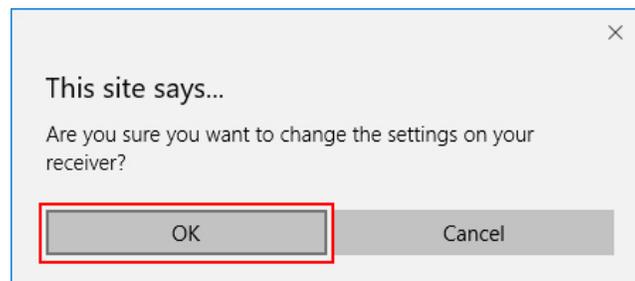
2. **Display Setting**（ディスプレイの設定）のセクションに移動し、**HDMI/VGA Port Power management**（HDMI/VGAポート電力の管理）ドロップダウンボックスから目的のオプションを選択します。選択可能なオプションは、**Always On**（常にオン）、**Screensaver**（スクリーンセーバー）と**Display Off**（出力オフ）です。



- **Always On**（常にオン）：このオプションを選択すると、HDMI出力が常にオンになります。
- **Screensaver**（スクリーンセーバー）：このオプションを選択すると、規定のアイドル時間（何も操作されない状態が続いた時間）が経過したときにスクリーンセーバーが実行されます。アイドル時間は、**Wait**（待ち時間）ボックスで設定できます（5～9999秒）。



- **Display Off**（出力オフ）：このオプションを選択すると、HDMI出力が常にオフになります。
3. **Apply**（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスで**OK**をクリックして設定を確定します。



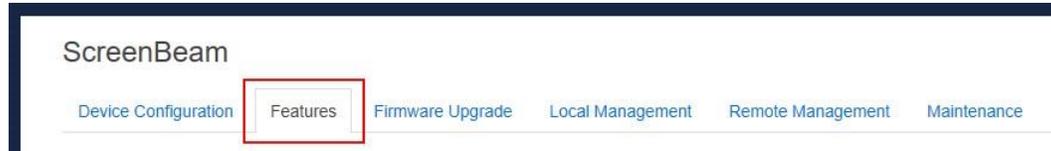
### 5.3.5.5 受信機のウェイクアップ機能を設定する

受信機でスクリーンセーバーが実行されているとき、2つのイベント（スキャンまたは接続）のいずれかで受信機をウェイクアップさせることができます。

注: **Wake Up**（ウェイクアップ）機能は、**HDMI/VGA Port Power management**（HDMI/VGAポートの電源管理）が**Screensaver**（スクリーンセーバー）と**Display Off**（出力オフ）に設定されているときに使用できます。

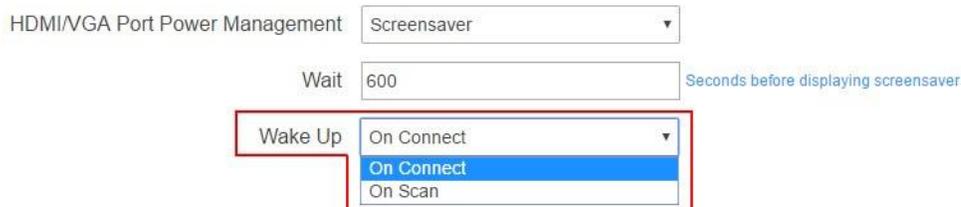
受信機のウェイクアップ機能を設定するには、以下の手順を実行します。

1. **Features**（機能）タブをクリックして**Features**（機能）タブのページを開きます。

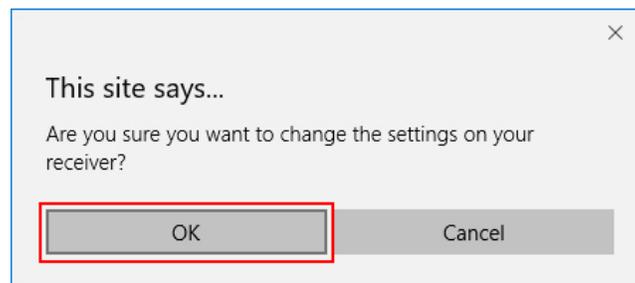


2. **Display Setting**（ディスプレイの設定）のセクションに移動し、**Wake Up**（ウェイクアップ）機能を**On Scan**（スキャン時）または**On Connect**（接続時）に設定します。

- **On Scan**（スキャン時）：送信デバイスがスキャンしているのを検出すると、受信機がスリープまたはスクリーンセーバーからウェイクアップします。
- **On Connect**（接続時）：送信デバイスが接続してくる場合、受信機がスリープまたはスクリーンセーバーからウェイクアップします。



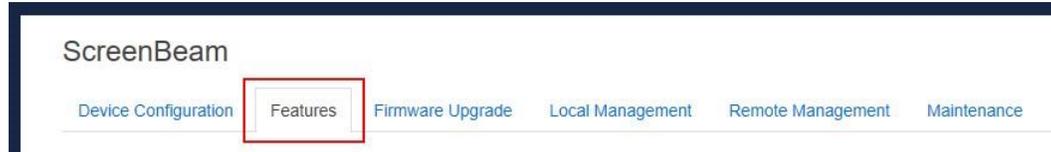
3. **Apply**（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスで**OK**をクリックして設定を確定します。



### 5.3.5.6 テレビ画面のサイズを調節する

テレビ画面のサイズを調節するには、以下の手順を実行します。

1. **Features** (機能) タブをクリックして**Features** (機能) タブのページを開きます。

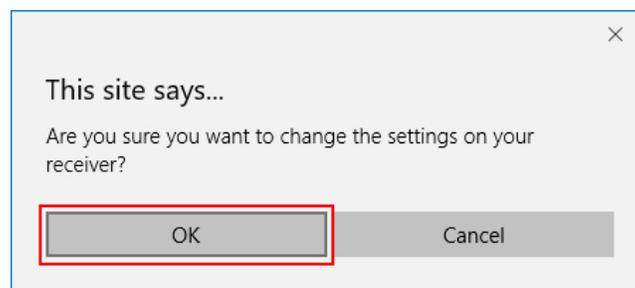


2. **Display Setting** (ディスプレイの設定) のセクションに移動し、**Adjust TV Screen Size** (テレビ画面のサイズの調節) ドロップダウンボックスから目的のオプションを選択します。

- テレビ画面のサイズは、0~25の範囲で調節できます。この値が大きいほど画面が大きくなります。
- **Allow source device to override overscan value** (入力元デバイスのオーバースキャン値を優先させる) : このオプションが有効のとき (チェックボックスがオン) のとき、入力元デバイスの設定に基づいてオーバースキャン値が設定されます。このオプションが無効のときは、受信機の設定に基づいてオーバースキャン値が設定されます。

Adjust TV Screen Size   Allow source device to override overscan value

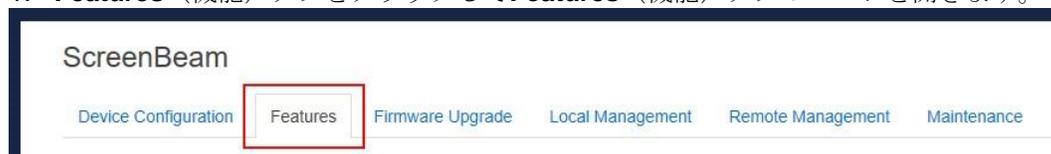
3. **Apply** (適用) ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスで**OK**をクリックして設定を確定します。



### 5.3.5.7 受信機の背景画像を更新する

受信機の背景画像を更新するには、以下の手順を実行します。

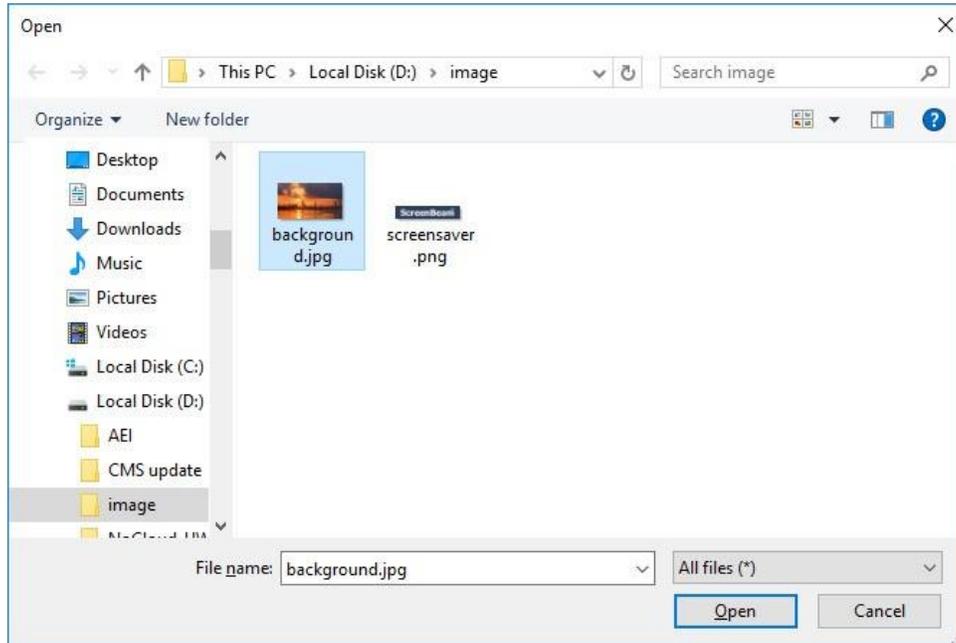
1. **Features** (機能) タブをクリックして**Features** (機能) タブのページを開きます。



2. **Display Setting** (ディスプレイの設定) のセクションに移動し、**Background Image** (背景画像) ボックスの隣にある**Browse** (ブラウズ) ボタンをクリックします。

Background Image   PNG/JPG. 2.5MB max. 1280x720 best

3. **Choose File to Upload** (アップロードするファイルを選択) ウィンドウが開きます。背景に使用する画像を選択し、**Open** (開く) ボタンをクリックして選択を確定します。

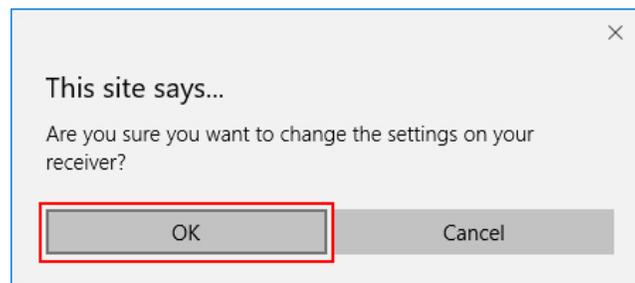


注:

- 使用できる画像形式は、.png形式または.jpeg/.jpg形式です。
  - ファイルサイズは2.5MB以下である必要があります。
  - 最適な画像サイズは、1280x720ピクセル (幅x高さ) です。
4. **Apply** (適用) ボタンをクリックし、背景画像を受信機にアップロードします。



5. 確認メッセージが表示されます。**OK**をクリックして次に進んでください。

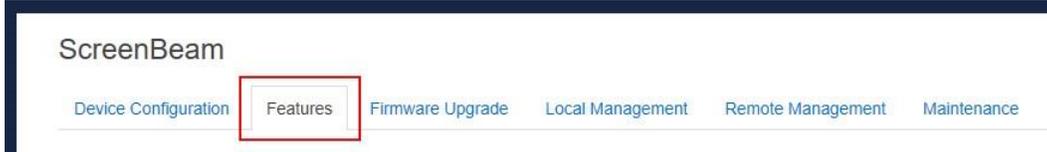


6. しばらくすると、背景画像が更新されます。この画像は、接続されているディスプレイで確認できます。

### 5.3.5.8 受信機のスクリーンセーバー画像を更新する

受信機のスクリーンセーバー画像を更新するには、以下の手順を実行します。

1. **Features**（機能）タブをクリックして**Features**（機能）タブのページを開きます。

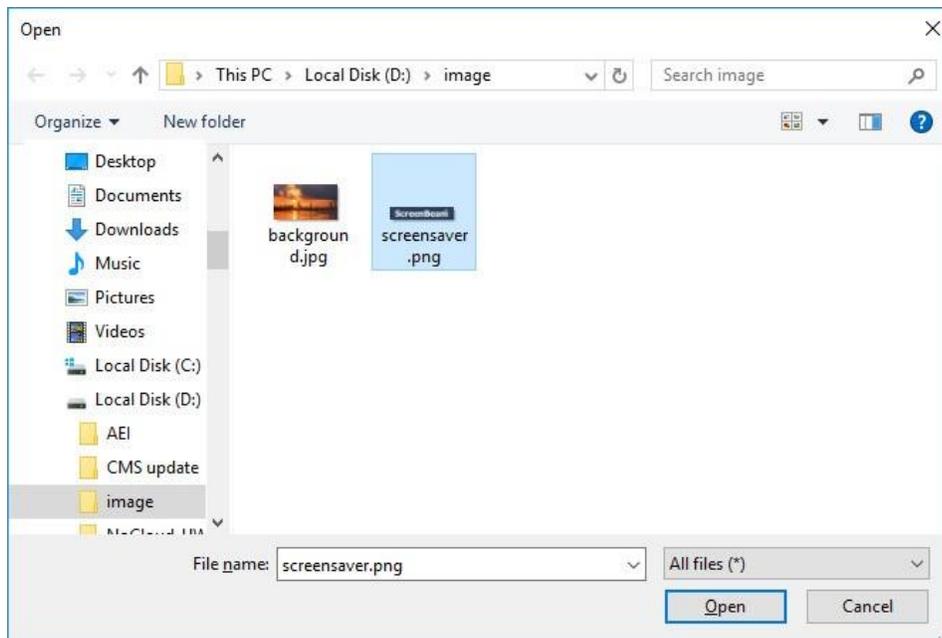


2. **Display Setting**（ディスプレイの設定）のセクションに移動し、**Screen**

Screen Saver Image  **Browse...** PNG, 200KB max, 300x60 best

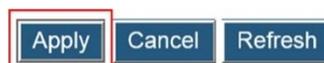
**Saver Image**（スクリーンセーバー画像）ボックスの隣にある**Browse**（ブラウザ）ボタンをクリックします。

3. **Choose File to Upload**（アップロードするファイルを選択）ウィンドウが開きます。スクリーンセーバーに使用する画像を選択し、**Open**（開く）ボタンをクリックして選択を確定します。

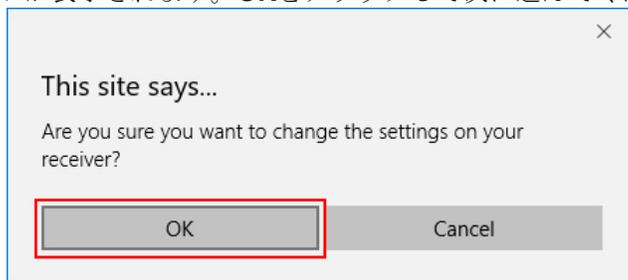


注:

- 使用できる画像形式は、.png形式です。
  - ファイルサイズは200 KB以下である必要があります。
  - 最適な画像サイズは、300x60ピクセルです。
4. **Apply**（適用）ボタンをクリックし、スクリーンセーバー画像を受信機にアップロードします。



5. 確認メッセージが表示されます。**OK**をクリックして次に進んでください。



6. しばらくすると、スクリーンセーバー画像が更新されます。この画像は、接続されているディスプレイでスクリーンセーバーが実行されたときに確認できます。

### 5.3.6 ネットワークの設定

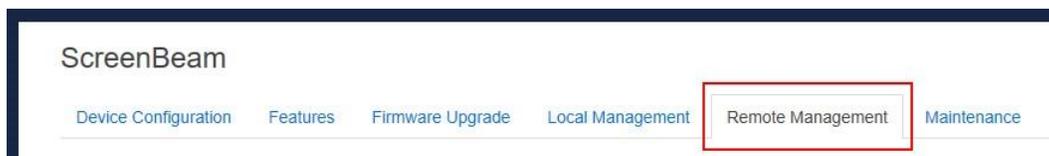
このセクションでは、ネットワーク接続（CMSインターフェイス、インターネットブリッジインターフェイス、イーサネット/無線インターフェイスのTCP/IP設定、無線接続など）に関する設定について説明します。

#### 5.3.6.1. 受信機のIPアドレスを設定する

受信機は、イーサネットインターフェイスまたは無線インターフェイスのいずれかを使用してネットワークに接続できます。これらのインターフェイスごとに、IPアドレスを設定する必要があります。デフォルトでは、受信機はIPアドレスを自動的に取得するよう設定されています。ネットワーク上でDHCPサーバーが稼働しているか確認してください。IPアドレスを設定する手順は、イーサネットインターフェイスの場合も無線インターフェイスの場合も同じです。

受信機のIPアドレスを設定するには、以下の手順を実行します。

1. **Remote Management**（リモート管理）タブをクリックして**Remote Management**（リモート管理）タブのページを開きます。



2. **TCP/IP Setting**（TCP/IPの設定）のセクションに移動し、**IP Assignment**（IPアドレスの割り当て）を**Auto**（自動）または**Static**（静的）に設定します。
  - **Auto**（自動）：DHCPサーバーによって受信機のIPアドレスが自動的に割り当てられます。
  - **Static**（静的）：受信機のIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイをユーザーが設定できます。**Static**（静的）を選択した場合、ユーザーがDNSサーバーを設定できます。

**TCP/IP Settings:**

IP Assignment  Auto  Static

IP Address

Subnet Mask

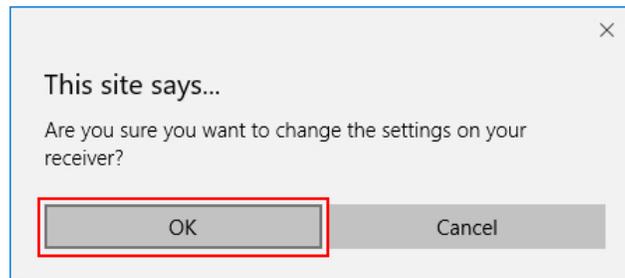
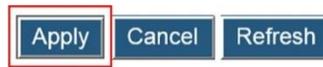
Default Gateway

DNS Assignment  Auto  Static

Primary DNS Server

Secondary DNS Server

3. **Apply** (適用) ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスで**OK**をクリックして設定を確定します。



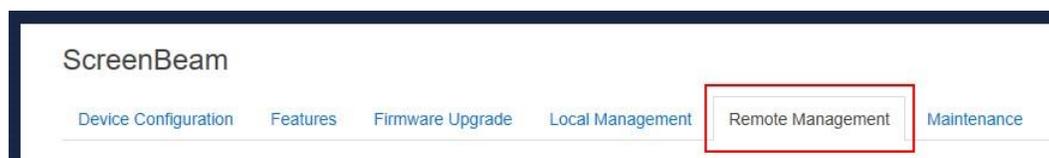
### 5.3.6.2. 受信機のDNSサーバーを指定する

受信機は、イーサネットインターフェイスまたは無線インターフェイスのいずれかを使用してネットワークに接続できます。これらのインターフェイスごとに、DNSアドレスを設定する必要があります。デフォルトでは、受信機はDNSの設定を自動的に取得するよう設定されています。

DNSアドレスを設定する手順は、イーサネットインターフェイスの場合も無線インターフェイスの場合も同じです。

受信機のDNSサーバーを指定するには、以下の手順を実行します。

1. **Remote Management** (リモート管理) タブをクリックして**Remote Management** (リモート管理) タブのページを開きます。



2. **TCP/IP Setting** (TCP/IPの設定) のセクションに移動し、**DNS Assignment** (DNSアドレスの割り当て) を**Auto** (自動) または**Static** (静的) に設定します。
  - **Auto** (自動) : 受信機のDNSサーバーが自動的に割り当てられます。

- **Static** (静的) : 受信機のDNSサーバーをユーザーが設定できます。**Static** (静的) を選択した場合、ユーザーがDNSサーバーを設定する必要があります。

**TCP/IP Settings:**

IP Assignment  Auto  Static

IP Address

Subnet Mask

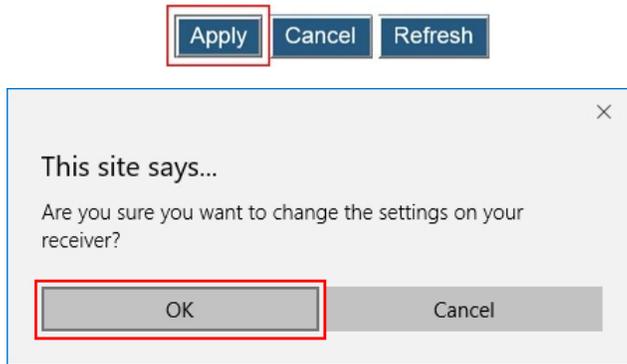
Default Gateway

DNS Assignment  Auto  Static

Primary DNS Server

Secondary DNS Server

3. **Apply** (適用) ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスで**OK**をクリックして設定を確定します。



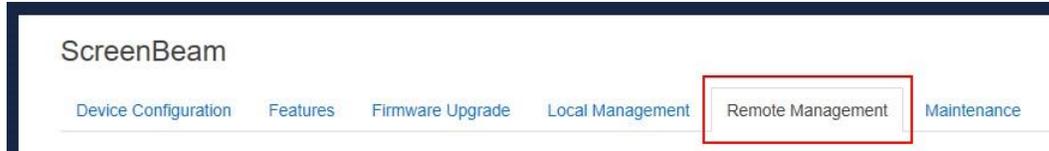
### 5.3.8 受信機の管理用アクセスの設定

このセクションでは、受信機の管理に関する設定について説明します。

#### 5.3.8.1 受信機のScreenBeam CMSを指定する

受信機のCMSを指定するには、以下の手順を実行します。

1. **Remote Management**（リモート管理）タブをクリックして**Remote Management**（リモート管理）タブのページを開きます。



2. **Central Management System Settings**（集中管理システムの設定）のセクションに移動し、**CMS Server**（CMSサーバー）と**CMS Communication Port**（CMS通信ポート）を設定します。

- **CMS Server**（CMSサーバー）：ScreenBeam CMSをホスティングするサーバーのIPアドレスまたはFQDN/ホスト名/ドメイン名/エイリアス名を設定します（後者の方法は、DNSサーバーとDHCPサーバーが正しく設定されている場合に使用できます）。1つのドメインにつき最大6個のラベルまで使用できます。

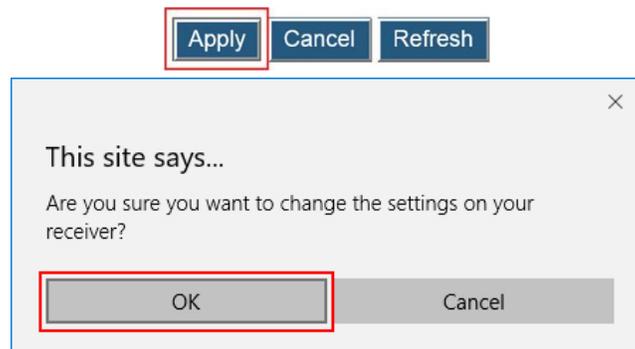
注: DNSの設定を使用することを推奨します。

- **CMS Communication Port**（CMS通信ポート）：ScreenBeam CMSの通信ポートを設定します。5000～65535の範囲でポートを設定できます。デフォルトではポート7237が使用されます。

#### Central Management System Settings:

CMS Server	<input type="text" value="aeisbcms"/>	<small>Enter IP, FQDN or Hostname</small>
CMS Communication Port	<input type="text" value="7237"/>	<small>Enter a port number, from 5000</small>
Web Communication Port	<input type="text" value="80"/>	<small>Enter a port number, from 5000</small>

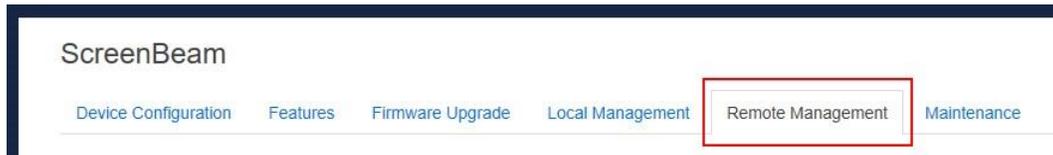
3. **Apply**（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスで**OK**をクリックして設定を確定します。



### 5.3.8.2 受信機のLMIのポートを指定する

受信機のローカル管理インターフェイスの通信ポートを指定するには、以下の手順を実行します。

1. **Remote Management**（リモート管理）タブをクリックして**Remote Management**（リモート管理）タブのページを開きます。

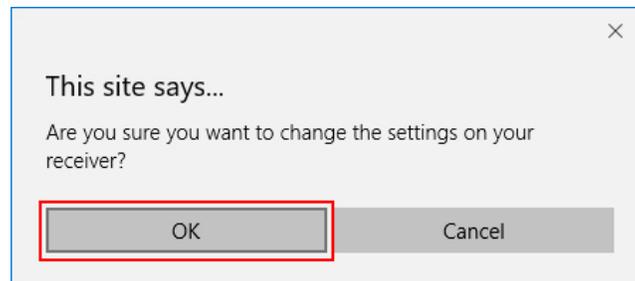


2. **Central Management System Settings**（集中管理システムの設定）のセクションに移動し、**Web Communication Port**（Web通信ポート）を設定します。
  - **Web Communication Port**（Web通信ポート）：受信機のローカル管理インターフェイスの通信ポートを設定します。5000～65535の範囲でポートを設定できます。デフォルトではポート443が使用されます。

Central Management System Settings:

CMS Server	<input type="text" value="192.168.7.187"/>	<small>Enter IP, domain or hostname</small>
CMS Communication Port	<input type="text" value="7237"/>	<small>Enter a port number, from 5000 - 65535(Default = 7237)</small>
Web Communication Port	<input type="text" value="443"/>	<small>Enter a port number, from 5000 - 65535(Default = 443)</small>

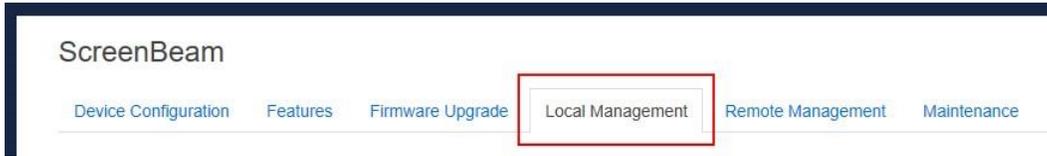
3. **Apply**（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスで**OK**をクリックして設定を確定します。



### 5.3.8.3 ローカル管理インターフェイスへのアクセスを設定する

受信機のローカル管理インターフェイス（LMI）は、受信機をローカルで管理するのに使われます。受信機のLMIへのアクセスを設定するには、以下の手順を実行します。

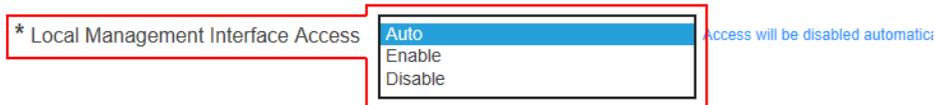
1. **Local Management**（ローカル管理）タブをクリックして**Local Management**（ローカル管理）タブのページを開きます。



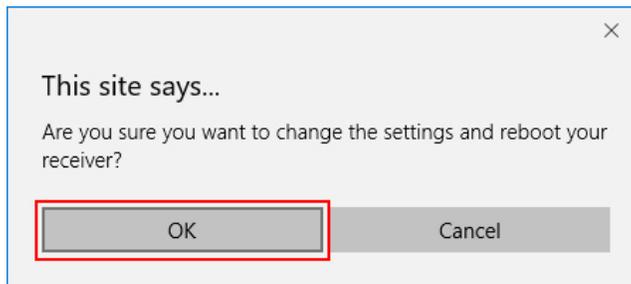
2. **Local Management Interface Access Settings**（ローカル管理インターフェイスへのアクセスの設定）のセクションに移動し、**Local Management Interface Access**（ローカル管理インターフェイスへのアクセス）ドロップダウンボックスから目的のオプションを選択します。次の3つのオプションが用意されています: **Auto**（自動）、**Enable**（有効）、**Disable**（無効）。

- **Auto**（自動）：受信機のLMIにアクセスできるかどうかは、CMSに接続されているかどうかによって決まります。受信機がCMSに接続されている場合、受信機のLMIへのアクセスは自動的に無効になり、そうでない場合は受信機のLMIへのアクセスが有効になります。
- **Enable**（有効）：受信機がCMSに接続されているかどうかにかかわらず、受信機のLMIへのアクセスが有効になります。
- **Disable**（無効）：受信機のLMIにはアクセスできません。

#### Local Management Wireless Access Settings



3. **Apply**（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスで**OK**をクリックして設定を確定します。



4. 受信機が再起動し、再起動後に新しい設定が反映されます。

## パートVI 受信機のファームウェアの更新

ScreenBeam 960では、無線経由（LMIを使用）またはローカル（USBフラッシュドライブを使用）でファームウェアの更新が行えます。

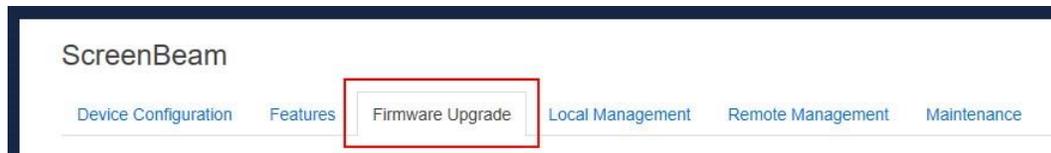
### 6.1 LMIからファームウェアを更新する

LMIから受信機のファームウェアを更新する方法は、ローカルPCから行う方法と、Webサーバーから行う方法の2つあります。

#### 6.1.1 ローカルPCからファームウェアを更新する

ファームウェアの更新ファイルをローカルPCから無線経由で転送して受信機のファームウェアを更新します。受信機を更新するには、以下の手順を実行します。

1. 弊社のWebサイトから最新のファームウェアをダウンロードします：  
<https://support.screenbeam.com/960>
2. ScreenBeam 960のローカル管理インターフェイスにログインし、**Firmware Upgrade**（ファームウェアの更新）タブをクリックして**Firmware Upgrade**（ファームウェアの更新）タブのページを開きます。



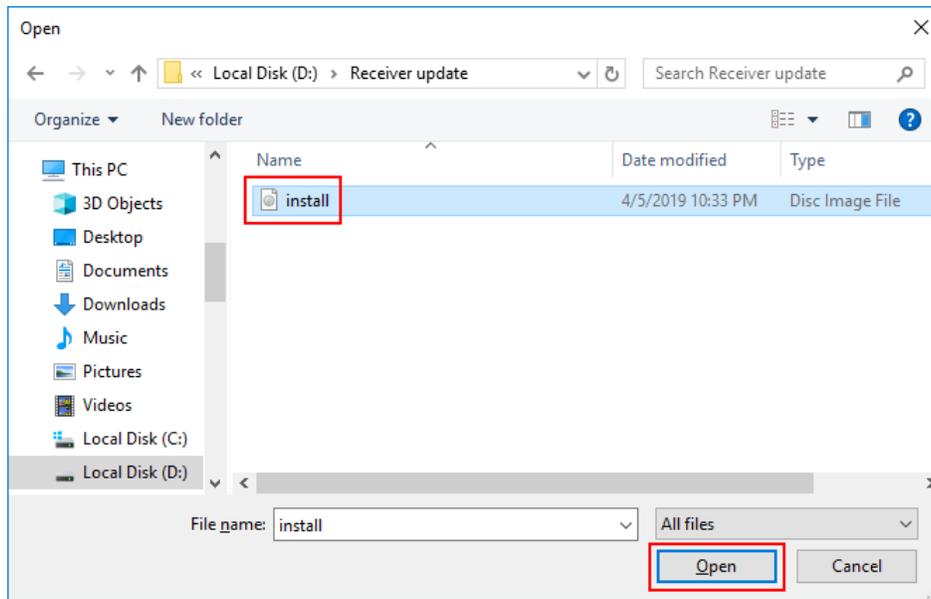
**Firmware Upgrade**（ファームウェアの更新）タブのページの**Firmware Version**（ファームウェアのバージョン）のセクションで、最新のファームウェアのバージョンを確認します。

Firmware Version	9.15.27.0
Firmware Update Status	Last upgrade successful
Firmware Package	<input type="text"/> <input type="button" value="Browse..."/>

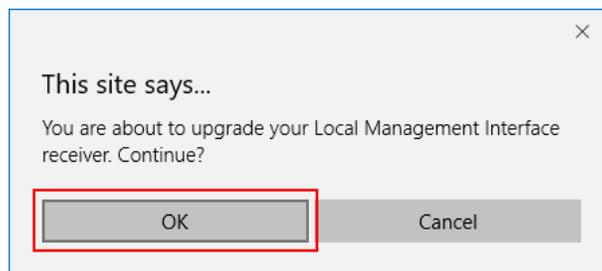
3. **Firmware Package**ボックスの隣にある**Browse**（ブラウズ）ボタンを選択します。

Firmware Version	9.15.27.0
Firmware Update Status	Last upgrade successful
Firmware Package	<input type="text"/> <input (highlighted="" a="" box)<="" red="" td="" type="button" value="Browse..." with=""/>

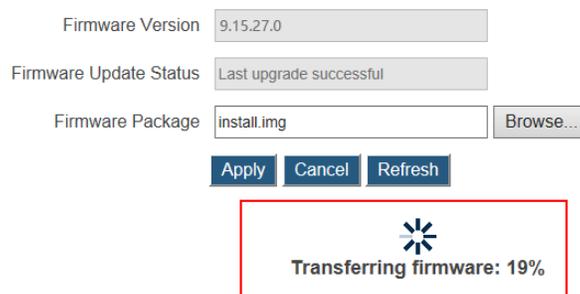
4. **Open**（開く）ウィンドウが開きます。解凍されたファームウェアのフォルダーに移動します。ファームウェアのファイル（**install.img**）を選択し、**Open**（開く）ボタンをクリックして次に進みます。



5. **Apply**（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスで**OK**をクリックして次に進みます。



6. Webサーバーによって、ファームウェアのファイルが受信機に転送されます。



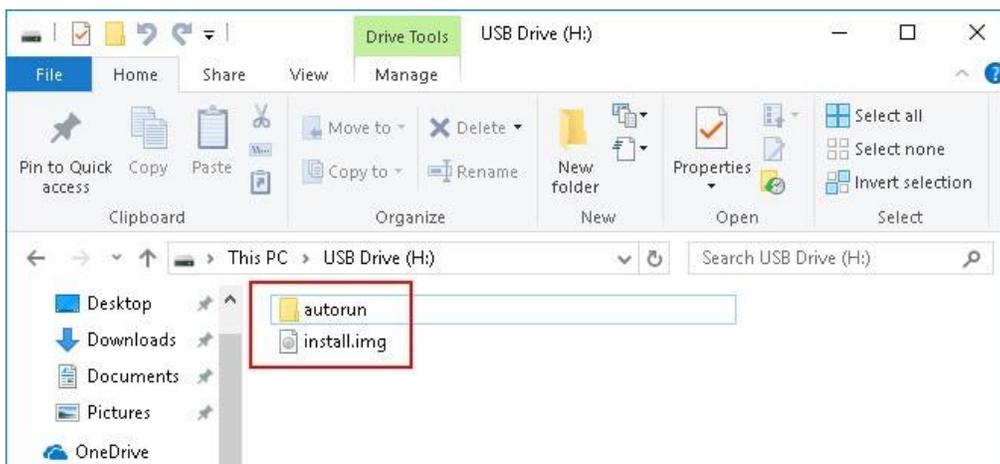
7. ファイルが正しくアップロードされると、受信機が再起動して更新されます。接続されているディスプレイにファームウェアの更新状況が表示されます。
8. 受信機のアップグレードが完了すると、受信機の画面が**Wireless Display Ready to Connect**（ワイヤレスディスプレイの接続準備ができました）の画面に戻ります。

**警告!** アップグレード中は受信機の電源をオフにしないでください。アップグレードはしばらく時間がかかります。アップグレードが完了するまでお待ちください。

## 6.2 USBドライブを使用してファームウェアを更新する

USBフラッシュドライブを使用して受信機のファームウェアを更新するには、以下の手順を実行します。

1. 弊社のWebサイトから最新のファームウェアをダウンロードします:  
<https://support.screenbeam.com/960>
2. ダウンロードしたファイルを解凍し、**install.img**と**autorun**をUSBフラッシュドライブのルートディレクトリにコピーします。



注:

- ポータブルハードディスクを使用しないでください。必ず、FAT/FAT32形式でフォーマットされたUSBフラッシュドライブを使用してください。
  - 解凍したファイルを編集しないでください。
3. テレビに**Wireless Display Ready to Connect**（ワイヤレスディスプレイの接続準備ができました）画面が表示されていることを確認します。注: 受信機をアップグレードする前に、お使いのデバイス（ノートPC、ウルトラブック、スマートフォン、タブレット）を受信機から切断してください。
  4. 受信機のLMIにログインします。 **Firmware Upgrade**（ファームウェアのアップグレード）のページに移動し、**Firmware Upgrade via USB Autorun**（USBドライブから）が**Enable**（有効）に設定されていることを確認します。



5. 受信機のUSBポートにUSBフラッシュドライブを挿入します。
6. 受信機によってファームウェアの更新が自動的に開始されます。テレビ画面にファームウェアのアップグレード状況を示すメッセージが表示されます。  
**警告!** アップグレード中は、受信機の電源をオフにしたり、USBフラッシュドライブを抜いたりしないでください。ファームウェアのアップグレードが失敗するおそれがあります。
7. ファームウェアのアップグレードが完了すると、受信機が再起動します。
8. **Wireless Display Ready to connect** (ワイヤレスディスプレイの接続準備ができました) 画面が再度表示されたら、USBフラッシュドライブを抜いてください。

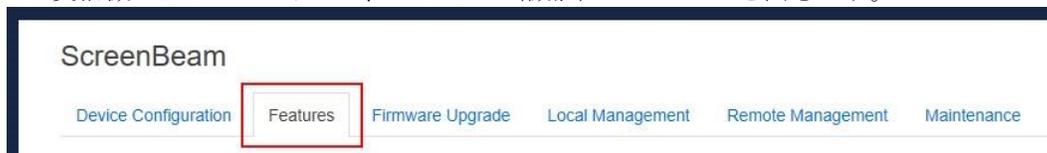
## Part VII 受信機のメンテナンス

このセクションでは、受信機のメンテナンスに関する設定について説明します。

### 7.1 受信機のログ動作を設定する

ScreenBeam受信機では、イベントをログに記録することができます。記録されたログは、受信機のLMIまたはScreenBeam CMSから取得できます。詳細については、ScreenBeam CMSのユーザーガイドを参照してください。受信機のログ動作を設定するには、以下の手順を実行します。

1. 受信機のLMIにログインし、**Features**（機能）タブページを開きます。

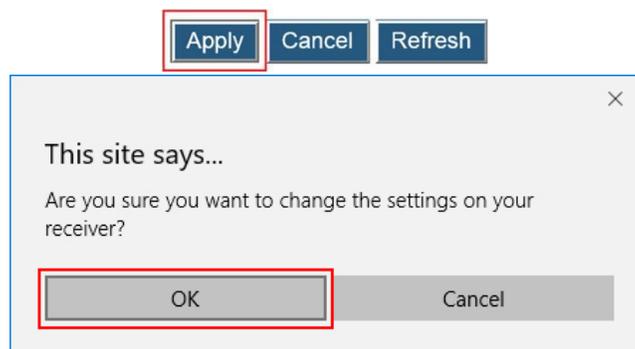


2. **Operation**（オペレーション）セクションに移動し、**Receiver Logging**（受信機のログ動作）を**Enable**（有効）または**Disable**（無効）に設定します。

- **Enable**（有効）：イベントが発生すると、ログが記録されます。
- **Disable**（無効）：イベントは記録されません。



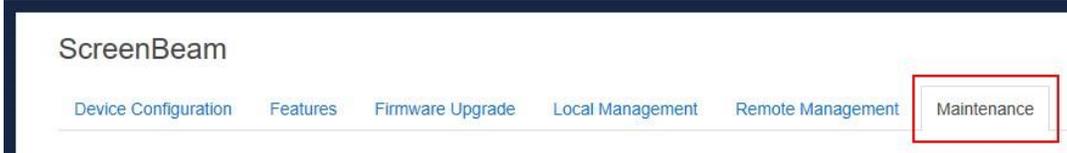
3. **Apply**（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスで**OK**をクリックして設定を確定します。



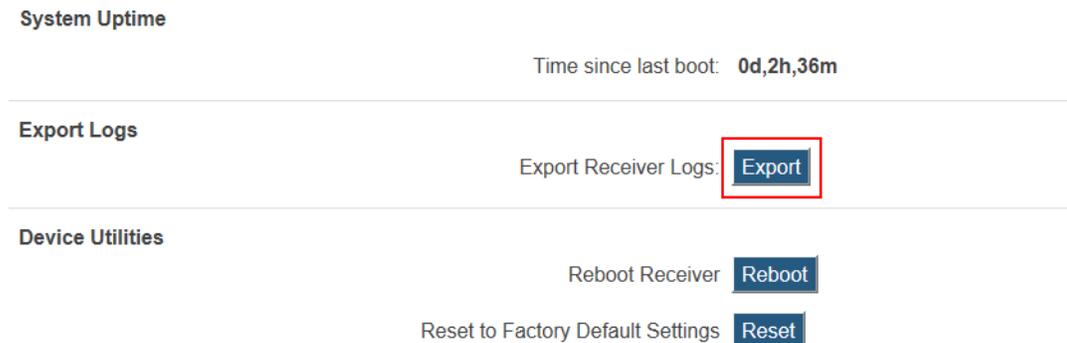
## 7.2 受信機のログをLMIにエクスポートする

受信機のログをエクスポートするには、以下の手順を実行します。

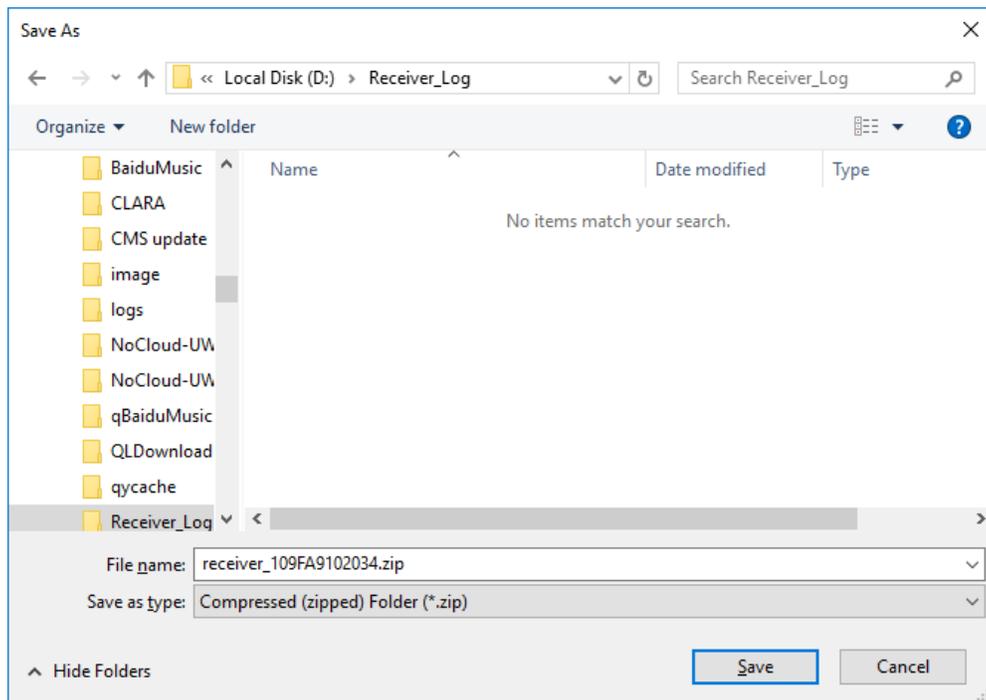
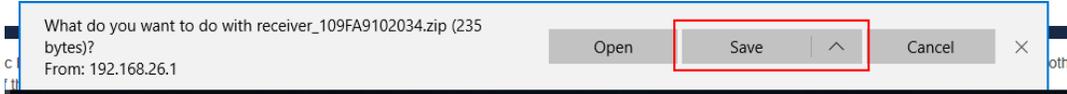
1. 受信機のLMIにログインし、**Maintenance**（メンテナンス）タブページを開きます。



2. **Export Logs**（ログのエクスポート）のセクションに移動し、**Export**（エクスポート）ボタンをクリックします。



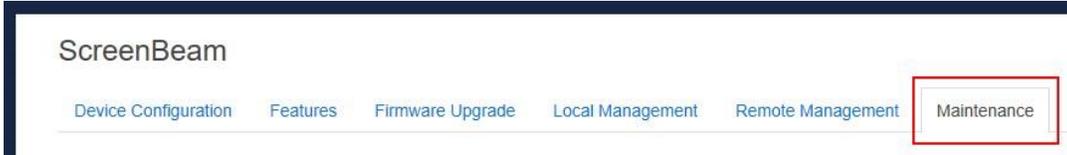
3. ファイルのダウンロードのダイアログボックスが開きます。**Save**（保存）または**Save as**（名前をつけて保存）をクリックし、受信機のログを保存します。



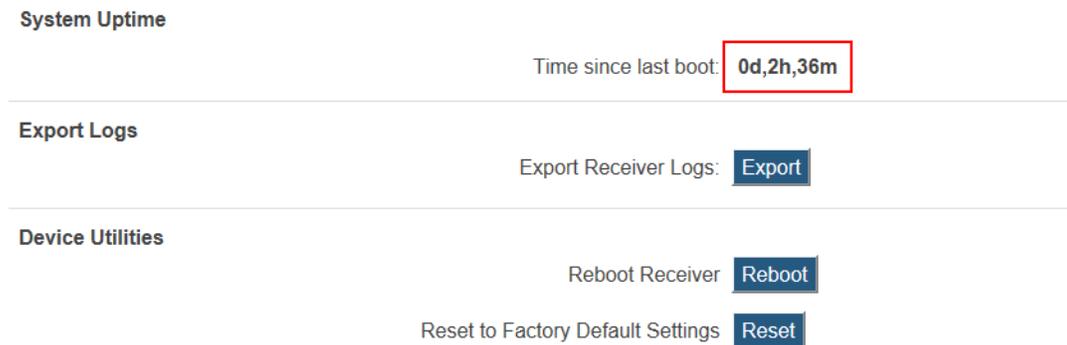
## 7.3 システムの稼働時間を確認する

受信機の稼働時間を確認するには、以下の手順を実行します。

1. 受信機のLMIにログインし、**Maintenance**（メンテナンス）タブページを開きます。



2. **System Uptime**（システムの稼働時間）のセクションに移動し、**Time since last boot**（最後に起動してからの時間）に表示される時間を確認します。

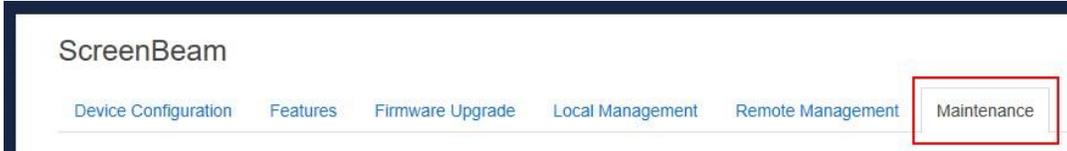


## 7.4 受信機を再起動する

受信機を再起動するには、電源コンセントから電源アダプターを抜き、5秒待ってから電源アダプターを電源コンセントに再度接続します。

受信機を直接触ることができない場合は、受信機のLMIを使用して再起動することができます。受信機を再起動するには、以下の手順を実行します。

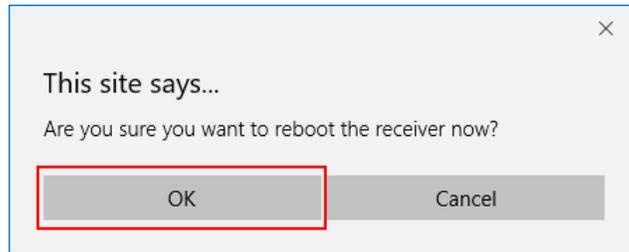
1. 受信機のLMIにログインし、**Maintenance**（メンテナンス）タブページを開きます。



2. **Device Utilities**（デバイスのユーティリティ）のセクションに移動し、**Reboot Receiver**（受信機の再起動）の隣にある**Reboot**（再起動）ボタンをクリックします。



3. ポップアップメッセージで**OK**をクリックして操作を確定します。



## 7.5 受信機をデフォルトの設定にリセットする

受信機を工場出荷デフォルトの設定にリセットするには、以下の手順を実行します。

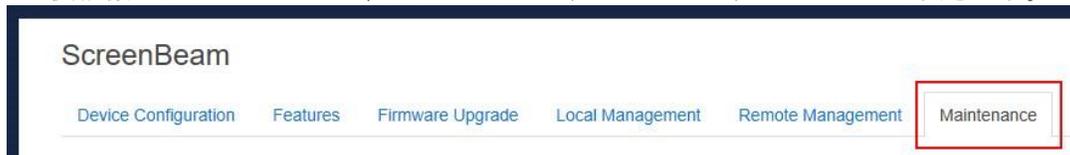
1. 受信機の電源をオンにし、**Wireless Display Ready to Connect**（ワイヤレスディスプレイの接続準備ができました）画面が表示されるまで待ちます。
2. 受信機の**Reset**（リセット）ボタンを押し続けます。
3. HDTVに**Resetting to factory defaults**（工場出荷時のデフォルトの設定にリセットする）画面が表示されたら、**Reset**（リセット）ボタンを離します。

受信機が再起動し、デフォルトの設定で動作が開始されます。

**注:** この方法を使用すると、すべての設定がデフォルト値にリセットされます。

受信機を直接触ることができない場合は、受信機のLMIを使用してリセットできます。以下の手順を実行してください。

1. 受信機のLMIにログインし、**Maintenance**（メンテナンス）タブページを開きます。

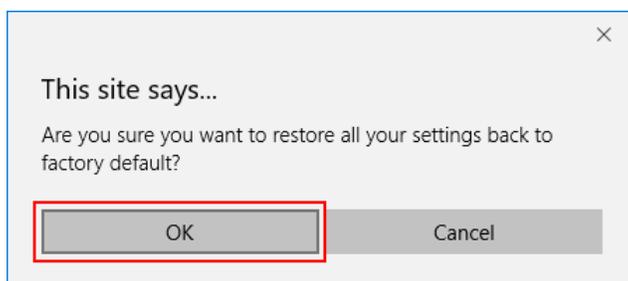


2. **Device Utilities**（デバイスのユーティリティ）のセクションに移動し、**Reset Factory Default Settings**（工場出荷時のデフォルトの設定にリセットする）の隣にある**Reset**（リセット）ボタンをクリックします。

Device Utilities



3. ポップアップメッセージで**OK**をクリックして操作を確定します。



4. 受信機が再起動し、受信機の設定が工場出荷時のデフォルト値にリセットされます。

<ul style="list-style-type: none"><li>● CMSサーバーのIPアドレス</li><li>● CMSの通信ポート</li><li>● 受信機のIPの設定（DHCPまたは静的IPアドレス）</li><li>● 受信機のIPアドレス</li><li>● 受信機のサブネットマスク</li><li>● 受信機のゲートウェイ</li><li>● 受信機のDNSの設定（動的または静的）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● プライマリDNS</li><li>● セカンダリDNS</li><li>● ホスト名</li><li>● 無線接続の設定</li><li>● タイムゾーン</li></ul>
--	---

LMIを使用して受信機をリセットした場合、以下の設定は保持されます。

## 7.6 最高のパフォーマンスを得るためのヒント

最高のパフォーマンスを得るためのヒントを以下に示します。

- 受信機が常に入力元デバイスの見通し内となるようにしてください。そうすることで、受信機は可能な限り最高の品質の信号を受信することができます。
- 受信機の最適な無線通信範囲は、入力元デバイスから30フィート以内です。ただし、実際の通信範囲や受信効率は、他の干渉源の存在や、周囲の構造物で使用されている建築材料など、さまざまな要因に左右されます。
- 無線干渉源（金属製の棚、扇風機、モーターを内蔵した機器、電子レンジ、コードレスフォン、Wi-Fi以外の2.4GHz無線機器など）の近くに受信機を置かないでください。

# 付録I トラブルシューティングとFAQ

この章では、ScreenBeam 960を使用中に発生する可能性がある問題とその解決策について説明します。また、よくある質問（FAQ）とその回答も掲載しています。

## トラブルシューティング

**受信機の電源をオンにしてもHDTVの画面に何も表示されません。**

ケーブルの接続を確認してください。また、テレビの入力が、受信機を接続するHDMIポートに設定されているか確認してください。

**アーチファクトが表示されます。また、映像ストリームがぎくしゃくしたり、激しく揺れたりします。**

ノイズが多いWi-Fi環境では、映像コンテンツ再生中に音声と映像がフリーズする場合があります。また、ストリーミング中、想定より長い時間、音声と映像がフリーズする場合があります以下の方法でWi-Fi環境が最適かどうか確認してください。

- 受信機をテレビから切断し、再度接続してください。
- 入力元デバイスが無線ルーターに接続されている場合、ルーターを再起動するか、無線ルーター/APの無線チャンネルを変更してください。詳細については、無線ルーターのユーザーマニュアルを参照してください。

**Miracast™デバイスでインターネットの映像を見ているときに、映像がぎくしゃくしたり、一瞬止まったりします。**

無線インターフェイスを使用すると、インターネットの映像がぎくしゃくする場合があります。その場合は以下のことをお試しください。

- デバイスを受信機から切断してください。インターネットの接続状態が良好か確認してください。また、携帯電話で映像をスムーズに再生できるか確認してください。
- YouTubeのキャッシュを削除してから、映像を再度再生してください。

**Miracast™デバイスでローカルの映像を見ているときに、映像がぎくしゃくしたり、一瞬止まったりします。**

無線インターフェイスを使用すると、映像がぎくしゃくする場合があります。その場合は以下のことをお試しください。

- 自分が受信機と同じ部屋にいるか確認してください。
- 可能であれば、ハードウェアデコーダーを使用するようにメディアプレイヤーを設定してください。
- Miracast™デバイスと受信機を再起動してから、再度接続してください。

- Miracast™デバイスをあまり移動させないでください。
- 無線ルーター/アクセスポイントまたは受信機の無線チャンネルを変更してください。

**Windows 10/8.1**の画面をテレビに表示しましたが、四隅がカットされてしまいます（オーバーキャン）。

サポートされているディスプレイ解像度によっては、このようになる場合があります。PCの画面がテレビ画面に収まるように、Windowsの画面解像度の設定を調節してください。

**ScreenBeam 960**の接続エラーが発生し、以後、デバイスを**ScreenBeam 960**に接続できなくなりました。

- **ScreenBeam 960**を再起動してから、再度接続してみてください。または、お使いのデバイス（ノートPC/ウルトラブック/タブレット/スマートフォン）を再起動してから、再度接続してみてください。
- **ScreenBeam 960**とお使いのデバイスを再起動してから、再度接続してみてください。
- Windows 10/8.1を使用している場合は、[PC設定の変更] > [PCとデバイス] > [デバイス] > [プロジェクター]を開き、お使いのデバイス（PC/ノートPC/ウルトラブック）から**ScreenBeam 960**のプロファイルを削除してから、再度接続してみてください。
- Windows 10を使用している場合は、[設定] > [デバイス] > [接続中のデバイス] > [プロジェクター]を開き、お使いのデバイス（PC/ノートPC/ウルトラブック）から**ScreenBeam 960**のプロファイルを削除してから、再度接続してみてください。

デバイスの**ScreenBeam**設定ユーティリティから受信機に接続できません。

このユーティリティから受信機が見つかりません。

**ScreenBeam 960**は、**ScreenBeam**設定ユーティリティに対応していません。受信機を設定またはアップグレードするには、受信機のローカル管理インターフェイスを使用するか、**ScreenBeam**集中管理システム(CMS)を使用してください。

送信デバイスを無線ネットワーク（ルーター/AP）に接続しましたが、**ScreenBeam 960**が自動的に切断されてしまいます。なぜでしょうか。

これは、送信デバイスが**ScreenBeam 960**に接続されている状態でそのデバイスを無線ネットワーク（ルーター/AP）に接続したときに、送信デバイスの通信チャンネルが変更されたためです。その結果、**ScreenBeam 960**は送信デバイスから切断されてしまいます。この問題を解決するには、お使いのデバイスを**ScreenBeam 960**に接続するより先に無線ネットワークに接続してください。そうすることで、**ScreenBeam 960**が送信デバイスおよび無線ネットワークと同じチャンネルで動作するようになり、通信が切断されることがなくなります。

## よくある質問 (FAQ)

**ScreenBeam 960受信機がディスプレイのVGAポートに接続されているときに、保護されたコンテンツを見ることはできますか。**

いいえ。VGAポートではブルーレイなどの保護されたコンテンツを再生することはできません。

**私のデバイスがWi-Fi Miracastに対応しているか調べるにはどうしたらよいですか。**

お使いのデバイスにMiracastアプリケーションがインストールされているか確認してください。Miracastアプリケーションの名前のいくつかを以下に挙げています。製品にインストールされているMiracastアプリケーションの名前は、メーカーによって異なる場合があります。ただし、いずれも同じものを指しています。

- 接続
- ワイヤレスディスプレイ
- ワイヤレスミラーリング
- 画面ミラーリング
- AllShareCast (Samsungのデバイスのみ)
- キャスト画面

推奨するMiracastデバイスについては、ScreenBeam 960の互換性のページを参照してください。

**ScreenBeam 960受信機を使用するためのドライバー/アプリケーションをインストールする必要がありますか。**

- **Windows 7/8**の場合、ScreenBeam USBトランスミッターとScreenBeamワイヤレスディスプレイのソフトウェアをインストールする必要があります。
- **Windows 8.1/10**の場合、最新のWindowsに更新してください。
- **Android 4.2**またはそれ以降の場合、アプリケーションは必要ありません。
- **AirPlay**対応の**Apple**デバイスの場合、アプリケーションは必要ありません。

**映像/音声のパフォーマンスを向上させるにはどうしたらよいですか。**

以下の方法でScreenBeam 960の映像/音声のパフォーマンスを向上させることができます。

- お使いのデバイスを受信機に近づけてください。
- よりクリーンな無線チャネルを使用している無線ネットワークにデバイスを接続してください。または、現在使用している無線ネットワークの無線チャネルを変更してから、デバイスを受信機に接続してください。
- 現在使用していないWi-Fiデバイスをオフにしてください。

**受信機からどのくらい離れた場所まで無線信号が届きますか。**

受信機は、入力元デバイスと同じ室内で使用するように設計されています。最高のパフォーマンスを得るには、受信機から20m以内の場所に入力元デバイスを置いてください。

受信機を使用するのに既存の無線ネットワークが必要ですか。

いいえ。

受信機はMiracast™対応デバイスと直接接続できるため、無線ネットワークは必要ありません。ただし、オンラインコンテンツを見る場合は、入力元デバイスをインターネットルーターまたはデータネットワークに接続する必要があります。

AirPlay対応のAppleデバイスの場合は、お使いのデバイスを受信機のローカルWi-Fiに接続してから、画面ミラーリングを開始してください。

画面表示をテレビ画面に正しくフィットさせるにはどうすればよいですか。

画面表示を調節するには、受信機のローカル管理インターフェイスを使用するか、ScreenBeam集中管理システムを使用します。

- 受信機のローカル管理インターフェイスにログインし、**Features**（機能）ページの**Adjust TV Screen Size**（テレビ画面のサイズの調節）セクションで画面表示を調節してください。
- ScreenBeam集中管理システムを使用する場合は、受信機をダブルクリックして受信機の設定ページを開き、**Features**（機能）セクションでテレビ画面のサイズを調節してください。

ScreenBeamの映像出力を16:9以外のアスペクト比に設定するにはどうすればよいですか。

- ScreenBeam受信機のHDMI出力は、16:9の解像度にしか対応していません。
- 16:9以外のアスペクト比で出力する場合は、受信機のVGA出力を使用してください。
- 入力元デバイスからEDID情報を出力する必要があります。EDID情報が提供されない状態で受信機のVGA出力を使用すると、ScreenBeamから1024x768の解像度で出力されます。
- VGAケーブルはI2S（3+6ラインまたは3+9ライン）に対応している必要があります。
- 入力元デバイスで目的の解像度に設定してください。その際、設定した解像度が、入力元デバイス、アダプター、表示デバイスでサポートされているか確認してください。そうでない場合、画面表示が間延びしたり、画面表示のエッジが黒くなったりします。
- 受信機のVGA出力を使用している場合、受信機のローカル管理コンソールにログインし、**Features**（機能）>**Display Setting**（ディスプレイの設定）>**Default VGA Format**（デフォルトのVGA形式）に移動し、デフォルトのVGA形式を正しく設定してください。

Miracast対応デバイスからHDTVまたはプロジェクターにWindowsデスクトップを拡張表示できますか。

はい。デフォルトでは、ScreenBeam 960受信機との接続が確立されると、ノートPCの画面がHDTVまたはプロジェクターにミラーリングされます。

HDTVまたはプロジェクターにWindowsデスクトップを拡張表示させるには、Windowsキ

ーとPキーを同時に押し、[複製]、[拡張]、[セカンドスクリーンのみ]のいずれかのモードを選択します。

macOSデスクトップをHDTVに拡張表示させるには、メニューバーにあるAirPlayのアイコンをクリックし、[内蔵ディスプレイをミラーリング]、[Apple TVをミラーリング]、[個別のディスプレイとして使用]から目的のプロジェクションモードを選択します。

#### **Wi-Fi Miracast™とは何ですか。**

Wi-Fi Certified Miracast™とは、ケーブルやネットワーク接続を使わずにデバイス間で映像をシームレスに表示するための画期的なソリューションです。ユーザーは、スマートフォンの画像を大きなテレビ画面に表示させたり、ノートPCの画面を会議室のプロジェクターにリアルタイムで共有したり、家庭のケーブルボックスを介して生放送番組をタブレットで見ることができます。Miracast™接続は、Wi-Fi Certified Wi-Fi Direct™を使って実現されるため、Wi-Fi®ネットワークにアクセスする必要はありません。接続するための仕組みは、Miracast™認証取得済みのデバイスに組み込まれています。

#### **Wi-Fi Directとは何ですか。また、Wi-Fi Directを使用して受信機に接続できますか。**

Wi-Fi Directとは、Miracast™接続を実現するためのピアツーピア接続技術です。新しいAndroid 4.0デバイスやWindows 8.1デバイスの中には、Wi-Fi Directのデバイススキャンで受信機を検出できるものもありますが、それらのデバイスを受信機に接続することはできません。受信機に接続するには、デバイスがMiracast™に対応している必要があります。

#### **接続要件を満たしているノートPCを、Wi-Fiルーターと受信機に同時に接続できますか。**

はい。利用可能なWi-FiルーターにノートPCを接続してから、受信機にノートPCを接続してください。これにより、ノートPCでオンラインコンテンツを見ながら、そのコンテンツをHDTVに配信できます。

#### **Miracast™デバイスを、Wi-Fiルーターと受信機に同時に接続できますか。**

Miracast™デバイスによっては、Wi-Fiルーターと受信機に同時に接続できないものがあります。詳細については、デバイスメーカーまたは通信事業者のユーザーマニュアルを参照してください。

#### **複数のMiracast™デバイスを受信機に同時に接続できますか。**

この接続形態は、Classroom Commanderモードで実現できます。詳細については、Classroom Commanderのユーザーガイドを参照してください。

#### **複数のScreenBeam 960受信機に同時に接続できますか。**

いいえ。同時に1台のScreenBeam 960にしか接続できません。

#### **テレビ/プロジェクターにHDMI入力がありません。ScreenBeam 960を使用できますか。**

はい。レガシー表示デバイス用に、VGAポートが用意されています。

**ScreenBeam 960ではUIBCがサポートされていますか。**

はい。ScreenBeam 960ではUIBCがサポートされています。送信デバイスにWindows 10システムがインストールされており、以下のハードウェア要件が満たされている必要があります。

- 第4世代Intel Coreプロセッサ（Haswellまたはそれ以上）
- AMD A4-5000プロセッサ（Kabiniまたはそれ以上）

**DLNAを使用してメディアを受信機にプッシュできますか。**

いいえ。本受信機はDLNAメディア受信機ではありません。

**受信機はAppleのiPhone、iPad、iPodに対応していますか。**

はい。ScreenBeam 960は、AirPlay画面ミラーリングがサポートされているAppleデバイスに対応しています。

**受信機を5GHz帯で使用するにはどうしたらよいですか。**

一般に、5GHz帯はよりクリーンなチャネルを使用できるため、この周波数帯で受信機を使用すると、より高いパフォーマンスが得られます。

受信機を5GHz帯で使用するには、5GHz帯対応のルーターを用意する必要があります。

注: すべてのルーターが5GHz帯に対応しているわけではありません。5GHz帯に対応しているかどうか、製品のメーカーに確認してください。

5GHz帯対応のルーターを使用できる場合、お使いのデバイスを5GHz帯対応のルーターに接続してからそのデバイスを受信機に接続してください。これで、受信機を5GHz帯で使用できるようになります。

**ScreenBeam受信機にUSBデバイスが接続されていないのに、「このディスプレイに接続されているキーボードまたはマウスからの入力を許可する」と表示されます。USBデバイスが接続されていないときにこのチェックボックスをオンにすると、Miracastの接続が影響を受けますか。**

いいえ。これはWindows 10の通常の動作です。

## 付録II お知らせ

### 保障について

本製品には、1年間のハードウェア保証がついています。

- 現地法

お客様には、本限定保証に特定の法的権利が付与されます。また、米国・カナダにおいては州ごと、世界においては国ごとに異なるその他の権利が与えられる場合があります。

本限定保証と現地法が矛盾する場合、現地法に合わせる形でその矛盾する範囲において本限定保証が訂正されたものと見なされるものとします。そうした現地法の下では、本限定保証で規定された免責事項や制約事項がお客様に適用されない場合があります。

### GPLに関する情報

GNU General Public License (GPL) に関する情報については、下記のURLにて問合せしてください: <https://www.screenbeam.com/ja/contact-us/>

### テクニカルサポート

FAQ、トラブルシューティングに関するヒント、ドキュメント、ファームウェアの更新、サポートについては、<https://support.screenbeam.com>を参照してください。

問い合わせは下記のURLにアクセスしてください:

<https://www.screenbeam.com/ja/contact-us/>

Webサイト: [www.screenbeam.com](http://www.screenbeam.com)